

■ 4. エジプト行政(NOUH)関係者へのオンラインレクチャー

①趣旨と全体の流れ

本事業は日本文化庁委託の事業であるために、エジプト側の国家機関との協力関係を示すことが、重要な課題であった。「■1 事業概要 ③実際の事業推移 (1)協力関係」において、国立都市景観調和機構との関係性はすでに指摘した。オンラインレクチャーについては、以前から親交のある国立都市景観調和機構のハイジ・シャラビー博士が主導的な役割を果たし、彼女との合議の上で、日時の設定などを行った。

大きな目的は、今回の事業に対する日本側の思いを伝え、より持続的なプロジェクトへの継続を狙ったものであった。日本側からは以下の構成を提案した。まず日本に蓄積された中東の伝統的都市空間に対する知見、その一つとして喫茶空間のあり方、日本の川越での保全事例、海外の歴史的建造物再利用の実態、日本での住民参加の試み、前回のプロジェクトでの日埃学生共同作成の町の更新案の紹介と今後の課題という6つの話題構成であった。当初は2つずつ(それぞれのタイトル; 1日目中東の空間特質、2日目都市保全の実例、2日目住民参加に向けて)を3日に分けて、あるいは3つずつ(それぞれのタイトル; 1日目中東と日本の空間特質、2日目都市遺産の使い方)を2日というスケジュールも考えたが、平日の同機構所属の技術職員を対象とするために、むしろ1日で済ませてしまうことが良いという結論に達した。

それぞれの発表については、続く「②日本側専門家からの事例・情報」に当日の資料を掲載し、「③質疑応答・意見交換」および「⑤アンケート結果」を添付する。今回はオンラインのみの会合となったために、前回のワークショップと比べると、ネット接続等の問題は生ずることはなかった。ただし zoomでのオンラインということで、あまり活発な議論はできなかったことは残念であった。しかしながら、今後もこのようなオンラインを続け、今度はエジプトの国立都市景観調和機構の事業を紹介したいという意見は、明るい未来を感じさせるものであった。またサラ氏氏が、1月8日9日の住民ワークショップに触れて、スーク・シラーハ通りでは、地区開発に対する住民参加のモデル例となることを力説し、設計に住民が参加し、住まいのニーズを満たす方向性で進めることを指摘した。

ここでは、ハイジ氏の英文レポートから、彼女の意見を抄録することとする。筆者の「中東都市における歴史地区とそこから学ぶこと/時間と空間の集積」で指摘するように、利用される用途や、サビール（公共泉）やウィカーラ（商館）のように用途を失った建物も多くある。ヤカン邸（バイトヤカンを含むイブラヒム・パシャ・ヤカンの邸宅を指す）は都市構造の中で大きな面積を占め、イスラーム時代特有の内部に向かって建てられていた。歴史都市の開発は、その設立の時代からの地位と成長を凍結するものではなく、地域の人口の必要なニーズを提供しなければならないが、歴史地域の普遍的な価値を失うことのないように留意する点は重要である。

宍戸氏の「都市における活動のための公共空間；街路と伝統的な喫茶店」という発表に対して、伝統的喫茶店を分類し、しかも地域ごとに比較した例は、評価できる。またカイロの数多くの伝統的喫茶店をその通りとの関係やモスクの関係で分析した点は、興味深い。都市保全への住民参加というテーマからは瑣末な点ながら、発表者が述べた伝統的コーヒー店は、むしろカイロ発祥ではなく、オスマン朝の時代にトルコからもたらされたものであるとハイジ氏は指摘する。しかしながら、コーヒーの飲用はイエメンで始まり、最初の伝統的喫茶店は、16世紀初頭のアラブ圏（カイロが有力だが、ダマスカス、メッカ説もある）にあったとすることが定説と言える。この質疑応答については、エジプト人の深い思い込みの側面を感じた。

荒牧氏の「川越の歴史的建造物の保存に向けた取り組みについて/街並とその現代的活用」という発表に対して、住民参加に対して市役所の役割が重要であることは見習うべきことである。また歴史や見どころ、祝祭などを明らかにして、観光目的のパンフレット作成という点も、評価できる。若い世代の人々が喜んで川越という古い街に住みたいという意識は、エジプトから考えると不思議だけれど、カイロ旧市街でもこのような動きを創出させることに取り組みたい。

磯野氏の「カフェ、ブティックホテルなど、歴史的建造物の現代的な利用法」については、さまざまな国での歴史的建築の活用から、学ぶことも多いが、住民の賛同を得たものなのかという点が気にかかった。ルクソールの新クルナ村では、世界遺産地区内において、建築家ハサン・ファタヒが設計したモスク、市場、劇場、住宅などが今でも使われており、国立都市景観調和機構ではその保全に携わっている。この事例は、エジプトでのモデルケースとなると考えている。

連氏の「日本の住民参加のまちづくりの仕組・事例—建築の参加のデザイン事例」については、国の法律（都市計画法、建築基準法、景観法などの全国一律の法律）のもとに地方条例が位置づけられることが印象にのこり、より小さな地方自治体が決める政令があり、各地域の個性が生かされるというシステムが築かれ、市民参加が重要なので各都市で独自の計画法がつくられているという点に、感化された。都市計画の策定に住民が参加し、その上でまちづくりや創造のビジョンを議論し、それをもとに地域が行動することは素晴らしいことで、住民一人では難しい点を建築家など専門家によるサポート体制が整っていることも見習いたい。

布野氏の「学生ワークから見るヒストリックカイロの可能性（2018年作品）とNOUHへのアドバイス」については、地域の住民、政府当局、ユネスコなど異なるステークホルダーが日常的に地域の将来について議論できる持続的なプラットフォームやコミュニティ開発センターなどの組織を設立する方法は、現在のカイロ旧市街に非常に有用な提案である。サラール氏から、ハンマーム・バシュタークの再開発についての、住民もまさに美容センターなどを求めていることが指摘され、観光客を誘致するために通りを通行止めにするというアイデアも支持された点には同意する。これらの提案を日本と協力する形で進めていきたい。そうすることによって、スーク・シラーハの通りの価値が高まり、住環境もグレードアップすることが望まれる。

プログラム

محاضرات لمهندسين يابانيين عبر الإنترنت بالتعاون مع الجهاز القومي للتنسيق الحضاري المسئول عن القاهرة التاريخية.

"كيف يمكننا تجديد مناطقنا التاريخية والاستفادة منها?"
2022 فبراير 21

11:30-11:40 **الافتتاح:** المهندس محمد أبو سعدة رئيس الجهاز القومي للتنسيق الحضاري (د.ر. هايدي شالبي) والمهندس تاكوي موراجي.

11:40-12:10 **المناطق التاريخية في مدن الشرق الأوسط والتعلم من الخبرات التاريخية المتراكمة عبر الزمان والمكان.**
الدكتورة نوكو فوكامي منيرة مكتب أبحاث JSPS، الجمعية اليابانية لتطوير العلوم - القاهرة.

12:10-12:40 **أماكن عامة حضرية للأنشطة، الشوارع والمقاهي التقليدية.**
الأستاذ كاتسومي شيشيدو، الأستاذ بكلية محافظة كلجو شياما.

12:40-13:10 **أنشطة للحفاظ على روية مدينة "كاواجويا" التاريخي واستخدامها الحديث.**
المهندس سوميكازو أراماكي، المدير التنفيذي كورا نو كاكي (رابطة المستودعات التاريخية).

13:10-13:20 **فاصل**

13:20-13:50 **الاستخدام الحديث للمباني التاريخية للمقاهي والمحلات والفنادق الصغيرة، وما إلى ذلك، بناء على نماذج يابانية.**
المهندس تيتسو إيسونو، باحث أول بمركز التنمية الدولي في اليابان.

13:50-14:20 **اليات ونماذج لمشاركة المجتمع في اليابان، ونتائج تصميماتها المعمارية.**
المهندس تاكوي موراجي، رئيس مجلس إدارة اللجنة اليابانية للعمارة الملائمة، البيئة المبنية.

14:20-14:50 **إمكانيات القاهرة التاريخية كما رأيناها من خلال أعمال الطلاب اليابانيين والمصريين في 2018، مع مثورة موجبة للجهاز القومي للتنسيق الحضاري.**
الدكتور شوجي فونو - الأستاذ بجامعة اليابان.

14:50-15:00 **الختام:** الدكتورة هايدي شالبي والاستاذ صلاح زكي

مدة كل محاضرة 20 دقيقة بالإضافة إلى 10 دقائق للإجابة عن الأسئلة

<https://us06web.zoom.us/j/84295619995?pwd=MkxmbG5aeCtnODRvSk16cE1XbU1vUT09>
Passcode: 585460 Meeting ID: 842 9561 9995

Online lectures by Japanese through dialogue with NOUH in charge of Historic Cairo (NOUH; National Organization of Urban Harmony in Egypt)

"How can we regenerate and make use of our historic districts?"
21st Feb. 2022

11:30-11:40 **Opening**, by E. Muhammad Abou Sa'ada (or Dr. Heidi Shalaby) & E. Takeo Muraji

11:40-12:10 **Historic districts in the Middle Eastern Cities; learning from the accumulation of time and space**
Dr. Naoko Fukami, Director, JSPS Research Station, Cairo, Japan Society for the Promotion of Science

12:10-12:40 **Urban public spaces for activities; streets and traditional cafes**
Eng. Katsumi Shishido, Professor, Kagoshima Prefectural College

12:40-13:10 **Activities for the preservation of Kawagoe's historic townscape and its modern use**
Eng. Sumikazu Aramaki, Executive Director, Kura-no-kai (Association of Historic Storehouse)

13:10-13:20 **Interval**

13:20-13:50 **Modern use of historical buildings for cafes, boutique hotels, etc. based on international practices**
Eng. Tetsuo Isono, Senior Researcher, International Development Center of Japan

13:50-14:20 **Mechanisms and examples of community participation in Japan, and their design of architecture**
Eng. Takeo Muraji, Chairman, Japan Commission for Appropriate Architecture and the Built Environment.

14:20-14:50 **The potential of Historic Cairo as seen through EJ student works in 2018 and advice for NOUH**
By Dr. Shuji Funo, Professor, Japan University

14:50-15:00 **Closing**, by Dr. Heidi Shalaby and Prof. Salah Zaky
Each lecture will be 20 minutes with question and answer for 10 minutes.

<https://us06web.zoom.us/j/84295619995?pwd=MkxmbG5aeCtnODRvSk16cE1XbU1vUT09>
Passcode: 585460 Meeting ID: 842 9561 9995

エジプト行政関係者への日本人専門家のオンラインレクチャー
(JCAABE 文化庁受託事業、カイロ旧市街の住民参加の保存まちづくり)
(NOUH: エジプト国文化省傘下の国立景観調和機構、研修)

【カイロ旧市街 "歴史地区をどのように再生し、活用するか?"】 ■2022年2月21日 18:30~22:00 (ZOOM オンラインレクチャー)

- 18:30-18:40 オープニング E. Muhammad Abou Sa'ada (or Dr. Heidi Shalaby)
連健夫 (JCAABE 日本建築まちづくり適正支援機構、代表理事)
- ① 17:40-19:10 中東都市における歴史地区とそこから学ぶこと/時間と空間の集積
深見奈緒子: 日本学術振興会カイロ研究連絡センター長
- ② 19:10-19:40 都市における活動のための公共空間; 街路と伝統的な喫茶店
穴戸克実: 鹿児島県立短期大学准教授
- ③ 19:40-20:10 川越の歴史的建造物の保存に向けた取り組みについて / 街並とその現代的活用
荒牧澄多: 川越まちづくり NPO 役員、蔵の会
- 20:10-20:20 休憩
- ④ 20:20-20:50 カフェ、ブティックホテルなど、歴史的建造物の現代的な利用法。
磯野哲郎: 財団法人国際開発センター 主任研究員
- ⑤ 20:50-21:20 住民参加のまちづくりの仕組と事例/建築の参加のデザイン事例
連健夫: 建築家、日本建築まちづくり適正支援機構代表理事
- ⑥ 21:20-21:50 学生から見るヒストリックカイロの可能性(2018年作品)と NOUH へのアドバイス
布野修司: 日本大学教授
- 21:50-22:00 クロージング、ハイディ・シャラビー博士、サラ・ザキー教授、岡田保良 (国土館大学)
(各講演は 20 分、質疑応答は 10 分)

※日本からの傍聴参加者への留意点

- ・当講演会は、日本人専門家がエジプト行政関係者に対して行うもので、当会での質疑応答はエジプト行政関係者からになります。日本からの傍聴参加者の質疑についてはチャットにご記入ください。後ほどご回答させていただきます。
- ・オンライン入室後は、音声及び画像はミュートでお願いします。
- ・入室された方の記録のために、名前と所属のご記入をお願いします。
- ・英語の通訳が入ります。ZOOM のお聞きしたい言語ボタンをご利用ください。

■ZOOM 招待 URL は以下の通りです。
<https://us06web.zoom.us/j/84295619995?pwd=MkxmbG5aeCtnODRvSk16cE1XbU1vUT09>
パスコード 585460 会議 ID: 842 9561 9995

②日本側専門家からの事例・情報

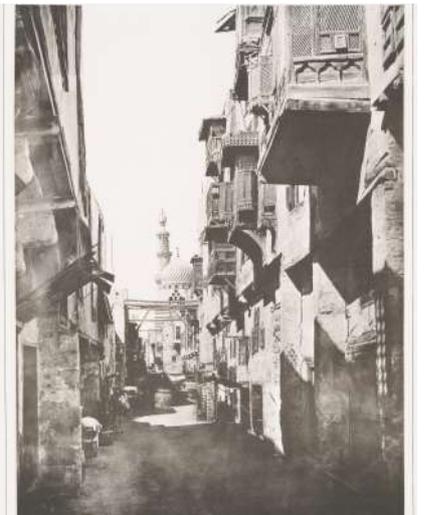
1. 中東都市における歴史地区とそこから学ぶこと／時間と空間の集積（深見奈緒子）

私は、イスラーム、特に中東、インド、中央アジアなどのイスラーム建築と都市の歴史を研究しています。今日は、中東の歴史的街区を保全するために、今までの歴史的蓄積から学べる点についてお話ししたいと思います。歴史都市カイロの魅力は、歴史的建造物がよく残っていることに加えて、複雑な街路網が、建物の新陳代謝はあっても概ねその形を維持しているところにあります。

右図は、赤い部分がエジプト誌に記載された古地図で、黒い部分がニコラスワナーの現代地図ですが、多くの部分が一致しています。



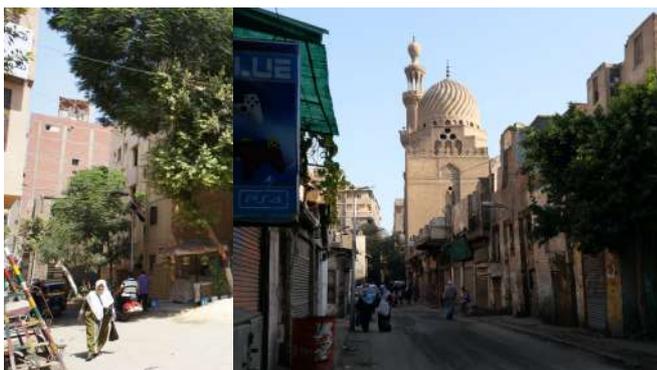
右の写真は、スーク・シラーハ通りのバトヤカン前の光景と、イルゲイ・ユーズフィー・モスクを見たところで、ともに19世紀末の写真です通りの太さが一定でなく、そこかしこにポケットのような空間や出窓の日陰を作っていることがわかると思います。また、ファサードが出窓や持ち送りをを用いて、変化の中に統一を作り出していることもその魅力の一つです。



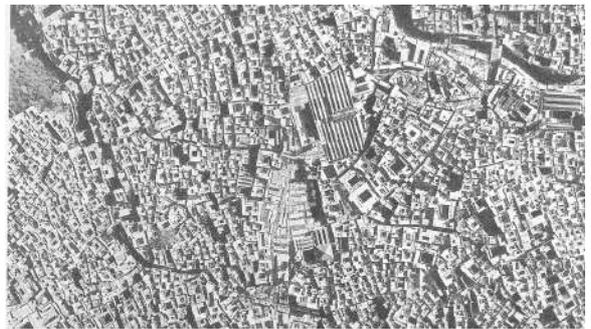
今では、高い建物など変化はありますが、道はそのままです。また、歴史的な建物は維持されています。

下図右から2番目のサラア教授が関与したプロジェクトでは、昔の雰囲気に戻ってきています。また、下右端のサビール・クッターブ・コーリアーンでは修復によって随分美しくなりました。

全てを昔に戻すことは無謀なことです。このような遺産を維持しながら現代生活に合わせてさらに魅力的な街にしていく方法を考えることが、私達の仕事だと思っています。



エジプト、アラブの人々に、東方の島国日本からきた私が、イスラーム建築の魅力をお話しするのは場違いかもしれません。今回のお話では、どのようにして右図のような不思議で魅力的な都市が作られ、どのように維持されてきたのかをお話しすることで、今後の歴史都市保全政策のヒントになればと考えています。



どのようにしてこうした形態が生まれてきたかという点をお話しします。初期イスラーム時代には、征服都市すなわち既存の都市をアラブ軍が征服してそのまま用いる場合と軍営都市があります。ダマスカスやアレppoのようなグリッド都市や、アフラシアブやレイのような非定型都市もありました。ところが、アラブ軍が作った軍営都市は整形な都市が多かったようです。



Afrasiab, pre Islamic to 13c.

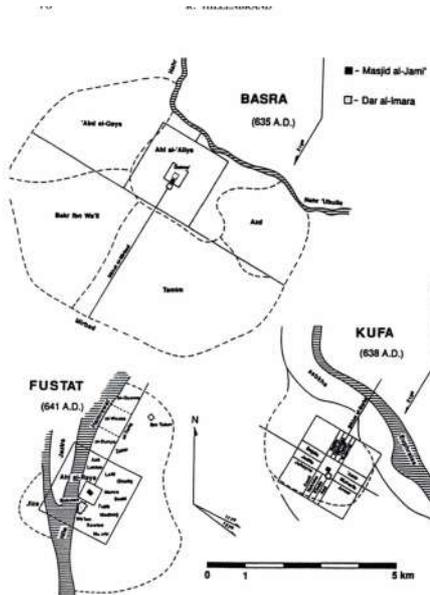
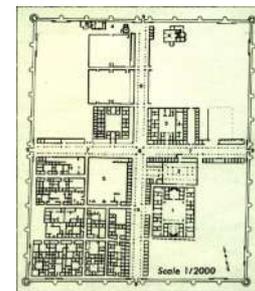
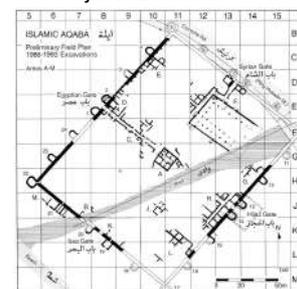


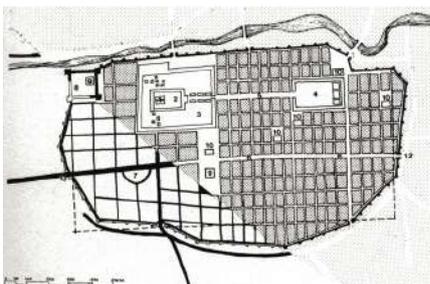
Fig. 4. Hypothetical overall town plans for the emirs of al-Basra, al-Kufa and al-Fustat (after D. Whitcomb, "The Mir of Aylec: Settlement at al-Aqaba in the Early Islamic Period")



Anjar in Lebanon



Aqaba in Jordan

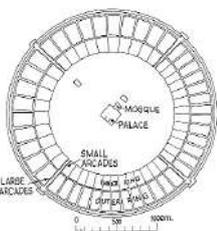


Damascus, Roman period

Early Islamic Misr by Hillenbrand

Early Islamic small city

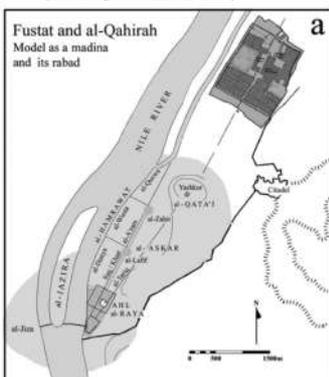
10 世紀頃までは、バグダード、カーヒラ、マディーナザフラーなど宮殿都市は、一般市民の住む市街とは別に、統治機能を担い帝国の表象となりました。これらとは別に一般市民が住む非定型な都市が共存しました。



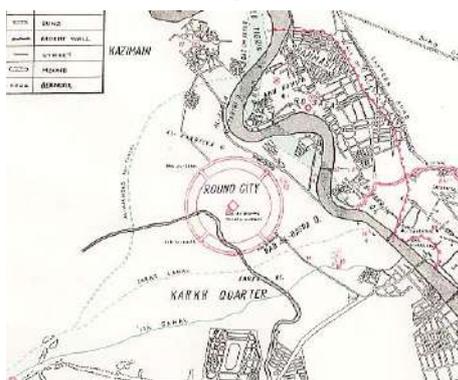
Palatial city



Cordoba and Madina al-Zahra

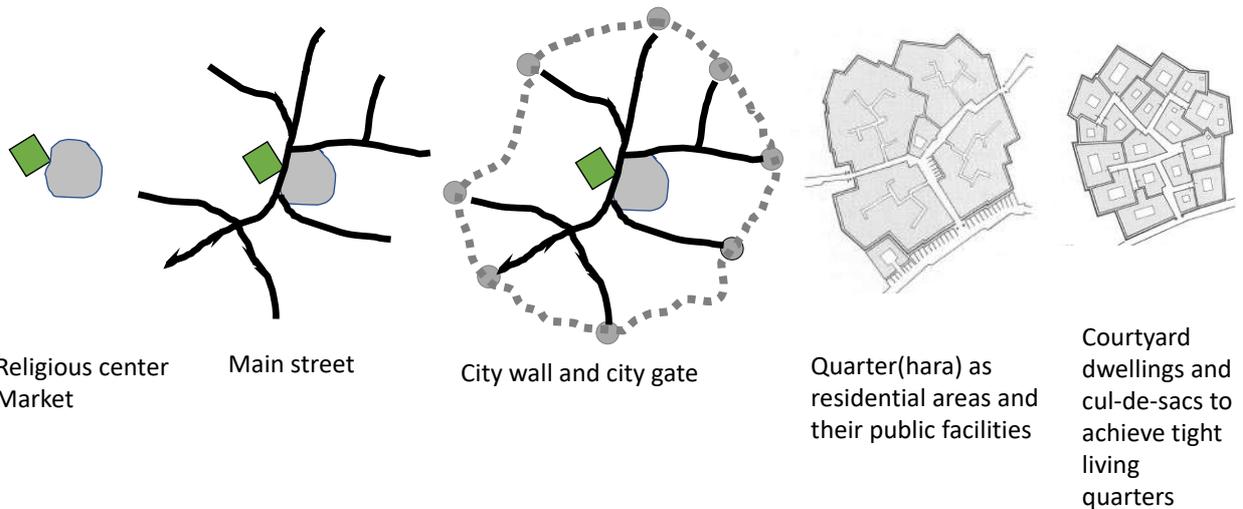
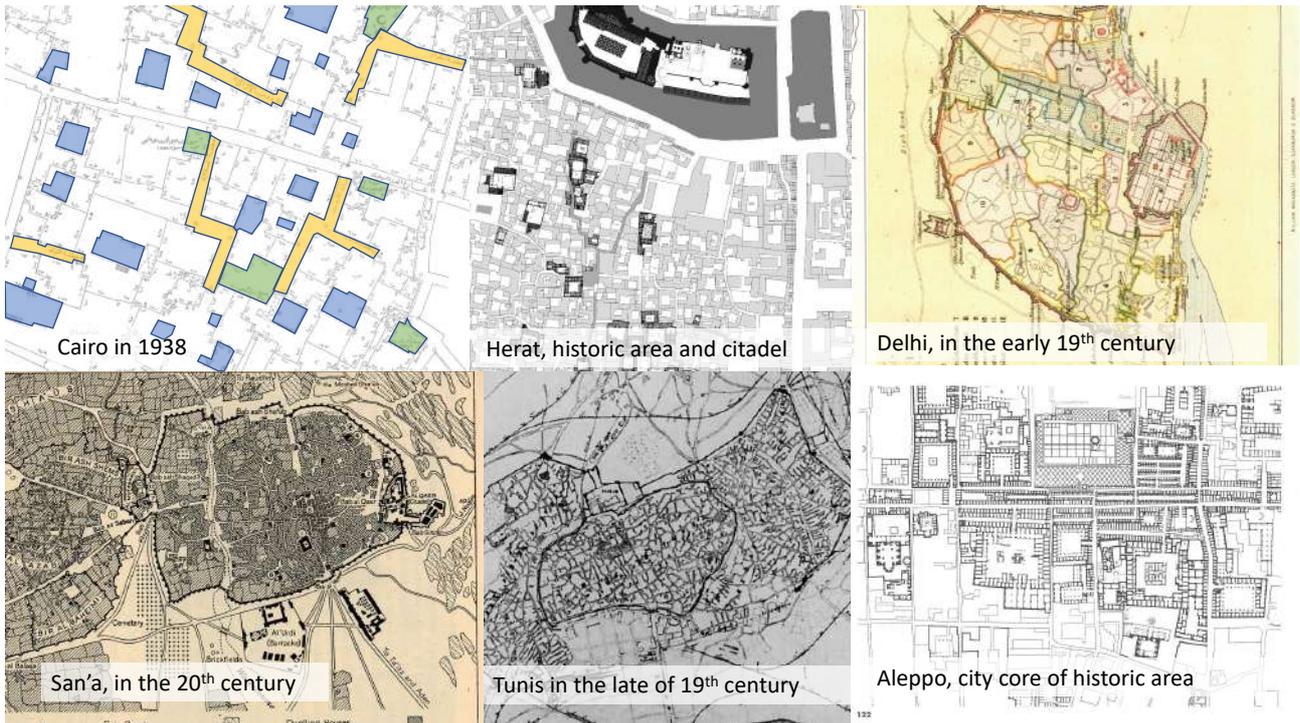


Fustat and Qahirah



Baghdad, round citadel and surrounding city

11 世紀以後になると下図にあげたような非定型都市の傾向が強まりますこの状況は 20 世紀初頭にいたるまで持続し、継続性という歴史的蓄積がこのよう一見有機的にみえる都市を熟成させたこととなります。



Bases of sovereign (palace;residences) → tend to be away from city centres

Political projects → water projects, religious donations

旧市街を読み解くための簡便な観点として、以下の5つを指摘したいと思います。

- ①宗教的中心と市場
- ②主要街路
- ③市門と市壁
- ④居住区域としての街区とその公共施設
- ⑤稠密居住を達成するための中庭住居と袋小路

それに加えて、為政者の拠点が中心から離れたところにあり、彼らは水事業や宗教的寄進をすることによって都市に間接的に関わってきたという点が挙げられます。

安定性を維持するための構造とは、乾燥地域という地理的環境と中世から近世という歴史的環境を基盤に育ったものです。そこでは、ムスリムの統治者の元でイスラーム法による、土地所有システム、ワクフシステムが機能していて、モスクやマドラサなどの宗教施設とハンマームやウィカーラなどの世俗施設を同梱し、拠点的な開発がなされました。それを可能としたのは都市の支配者が遊牧系の出自であって、ハーラや工人集団、スーフイーコミュニティなどに属する街区住民の自治が図られていたからではないでしょうか？

先ほども申しましたように、全てを過去に戻したいというわけではありません。過去の文明が築いた遺産を、できるだけ活用しながら、その利点を次世代に伝えていくことが、重要です。と同時に、今後連続講義で話に登りますが、過去の文明が築いた遺産をきちんと管理運営することによる経済効果も見込まれます。

今までお話したシステムの中で、ワクフシステムにおける宗教建築と世俗建築をつなげて考え、そこから上がる収益を地域維持に使い、公共の誰もがアクセスできる施設を充実させるという点は大いに利用できる側面です。

下図は、ダルブ・アフマルの歴史的建造物をプロットしたのですが、こうした建造物が相互に経済的関係性を持ちながら、住民のサービス、あるいは旧市街観光に役立てていくシナリオが求められています。

安定性を維持するための構造

- ◆乾燥地域という地理的環境
- ◆中世から近世という歴史的環境

□イスラーム法

▶土地所有システム

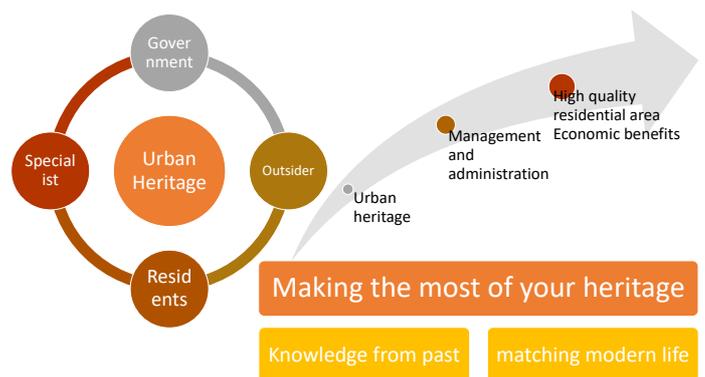
- ・不動産は神の所有、使用权が個人に属する
- ・相続によって均等分割、土地所有権と建物使用权は別
- ・細分化する所有

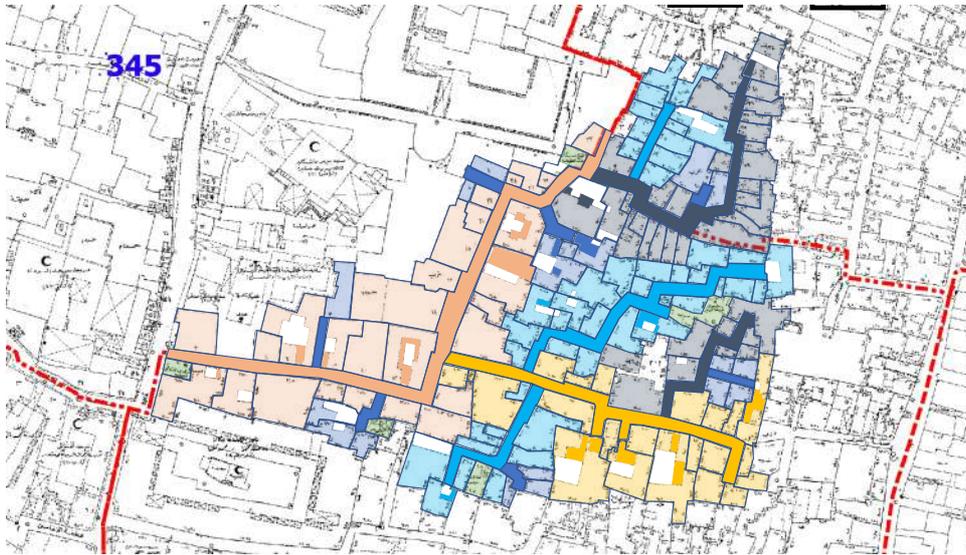
▶ワクフシステム

- ・公的建造物を喜捨によって維持
- ・所有権の移動を停止する
- ・相続による分割を防ぐ

→宗教施設とワクフ財を同梱した都市の拠点開発

- ✓都市の支配者が遊牧系の出自
街区住民の自治

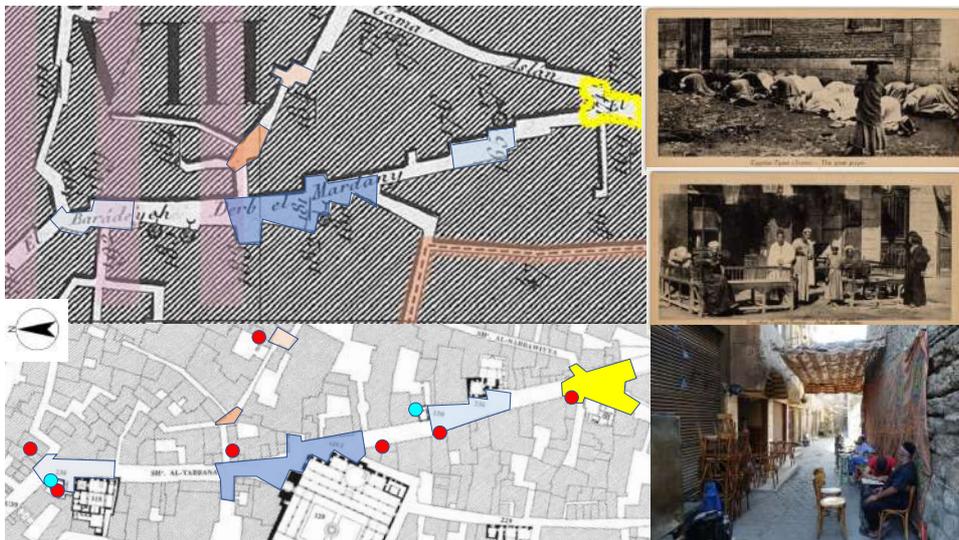




もう一つ、快適な居住環境を維持するためのコミュニティのための街区（ハーラ）や袋小路などは、今後の歴史都市保全に役立つ点ではないかと思っています。一番上の図はガマレイヤの大きな袋小路を、1938年の地図に落としたものですが、袋小路の中にも小さな塊があることがわかります。



袋小路だけではなく、通り抜け街路にもコミュニティがあります。上から2番目・左のナポレオン地図に表された街路名を、中央の1938年の地図にたどることができます。中央の地図の白抜き部分は1938年の地図に両側の道路番地が記入してあるものです。中央地図の真ん中下の白抜き部分は、イブラヒム・パシャ・ヤカンの住宅ですが、こうした広大な住宅はプライベートな部分だけではなく、パブリックな役割をも果たしていました。それをまさに実行しているのは、左のアラー教授のバート・ヤカンということができるといえるでしょう。



細かな点になりますが、街路の歪みや歴史的建築の凹凸によって生じる小さな広場も、未来への活用性を秘めているように思います。一番下の図に示した小さな広場は、人々の集まるスペースになって、今でもアフワや金曜礼拝などに使われることもあります。

最後に、歴史的カイロには、大きな問題も山積しています。自動車交通、建物高さ、ゴミ問題、安全性の確保、インフラの整備、貧困居住区などなど。こうした問題点を解決しながら、世界に誇れる歴史都市カイロの遺産とともに居住する道筋を作っていけることを希望します。

2. 都市における活動のための公共空間; 街路と伝統的な喫茶店(宍戸克実)

こんにちは皆さん。私の名前は宍戸克実です。日本のカレッジで建築を教えています。大学生の時にトルコに留学して、伝統的なアフワに興味を持ちました。今日は、日本人の私が、エジプト人のみなさんへ、カイロのアフワについてプレゼンテーションすることに挑戦します。

皆さん、カイロのアフワに、どんなイメージを持っていますか？ 良いイメージもあれば、悪いイメージもあるかもしれません。でも、アフワはとても不思議な場所だと思います。

アフワは、家でもなければ、仕事場でもありません。でもアフワでは、家のようにくつろぐし、仕事の話をすることもあります。アフワはまるで、街の中にある、家のリビングや客間、仕事場のような場所だと思います。

まず、カイロのアフワの話をする前に、他の国の伝統的なアフワを紹介します。

右の地図に示された国の都市のアフワです。もちろん、カイロにも、これらの国々にもスターバックスのような現代的なアフワはたくさんあります。今回は、伝統的で庶民的なアフワだけを紹介しします。

右図はトルコのアフワです。イスタンブールもカイロと同じように、アフワの歴史はとても古いのです。やはり、たくさんのアフワがあります。イスタンブールの冬は寒くて雨も降るので、店内に客席がたくさんあります。



Traditional coffee shops in various cities



Turkey



右図は、シリアとイランです。カイロと同じようにシーシャを吸っているのが見えます。アフワの数は、カイロやイスタンブールほど多くはありません。

右図は、タンザニアとケニアです。街の至る所に Baraza というマスタバ（ベンチ）のようなものがあるのが特徴です。アフワはこの街路や広場のマスタバを使って営業しています。

右図はインドのです。インドのアフワは、ほとんどが露店タイプです。露店の周りに座るところがないので、立って飲みます。でも私は、カイロのアフワのように、座ってお茶を飲むのが好きです。

Syria/Iran



Damascus, 2009



Damascus, 2009



Tehran, 2002



Damascus, 2009



Isfahan, 2017



Isfahan, 2017

Tanzania/Kenia



Zanzibar, 2010



Zanzibar, 2010



Lamu, 2010



Zanzibar, 2010



Zanzibar, 2010



Lamu, 2010

India



Delhi, 2016



Gujarat, 2014



Gujarat, 2014



Gujarat, 2014



Gujarat, 2014



Gujarat, 2014

現在、ヨーロッパにも、アメリカにも、日本にも、世界中にアフワがあります。現代的なアフワも、伝統的なアフワも、それぞれの地域の特徴があります。しかし、アフワの起源は、ここ、アラブです。カイロのアフワは、世界で最も古い歴史があります。そして、現在でも、カイロ旧市街には、伝統的で庶民的なアフワがたくさんあります。ちなみに、アラビア語ではマクハー、カフワと呼ぶこともありますが、エジプトではアフワが一般的です。トルコ語ではカフヴェ、カフヴェハーネと呼ばれます。19世紀のレーンの絵には、石造のマスタバの上に座ってシーシャを吸い、室内でコーヒーを淹れるアフワが描かれています。

アフワの形式は、大きく3種類に分けることができます。

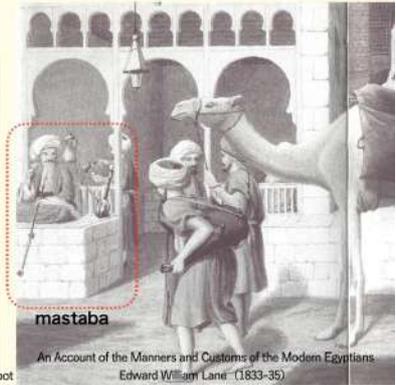
まず、上から2番目の図が、一つめの形式です。店内に客席があって、外にも客席があるのが、一般タイプのアフワです。Souq Silahにもこのタイプがたくさんあります。

次に上から3番目の写真がストリート形式です。店内に客席がなく、客席は街路や広場などの屋外にしかありません。とても開放的で、私のような外国人や観光客でも座りやすいアフワです。

最後に、一番下の図は、デリバリー形式のアフワです。建物の隙間に店を構え、客席もありません。配達が専門なので、とても小さなアフワです。

Ahwa in Cairo in the 19th Century

Arabic : maqhā, qahwa, ahwa
Turkish : kahve, kahve hane



Types of Ahwa ① General style Ahwa



Types of Ahwa ② Outdoor style Ahwa



Types of Ahwa ③ Delivery style Ahwa

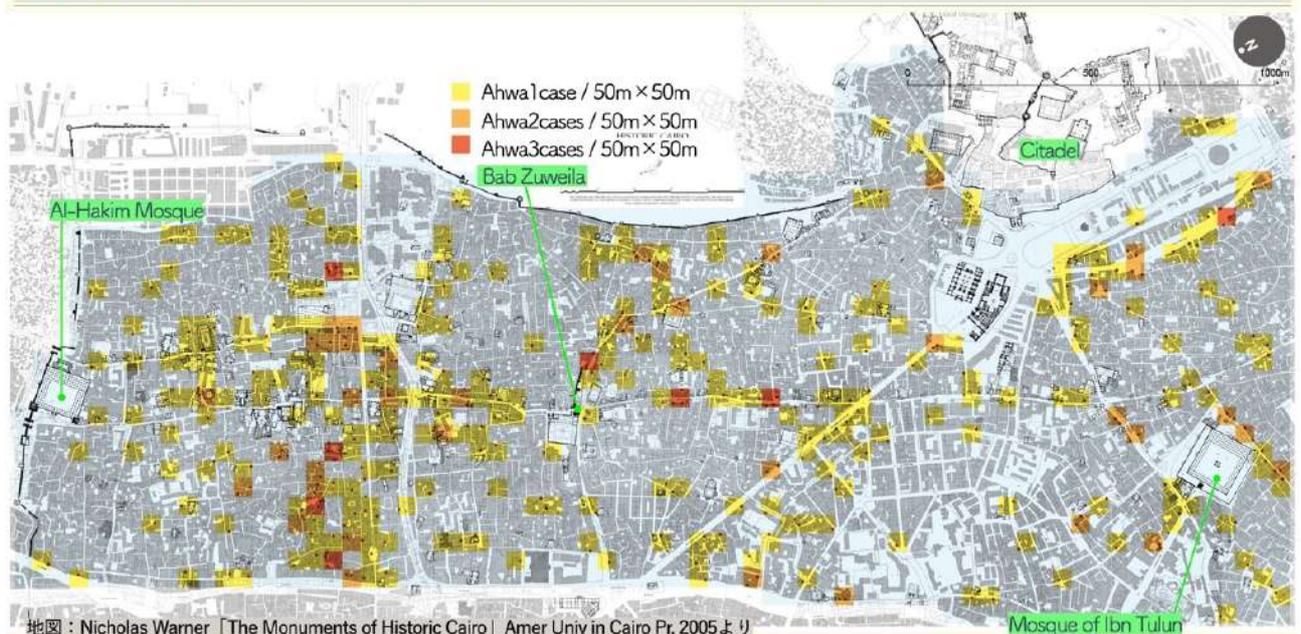


Old City of Cairo, Islamic Area



では、次に、カイロ旧市街全体のアフワを紹介していきます。こちらは、カイロ全体の地図です。赤い枠が、旧市街のイスラーム地区です。水色の枠が、ダルブアフマルです。私たちは、この赤い枠の中のアフワを数えました。

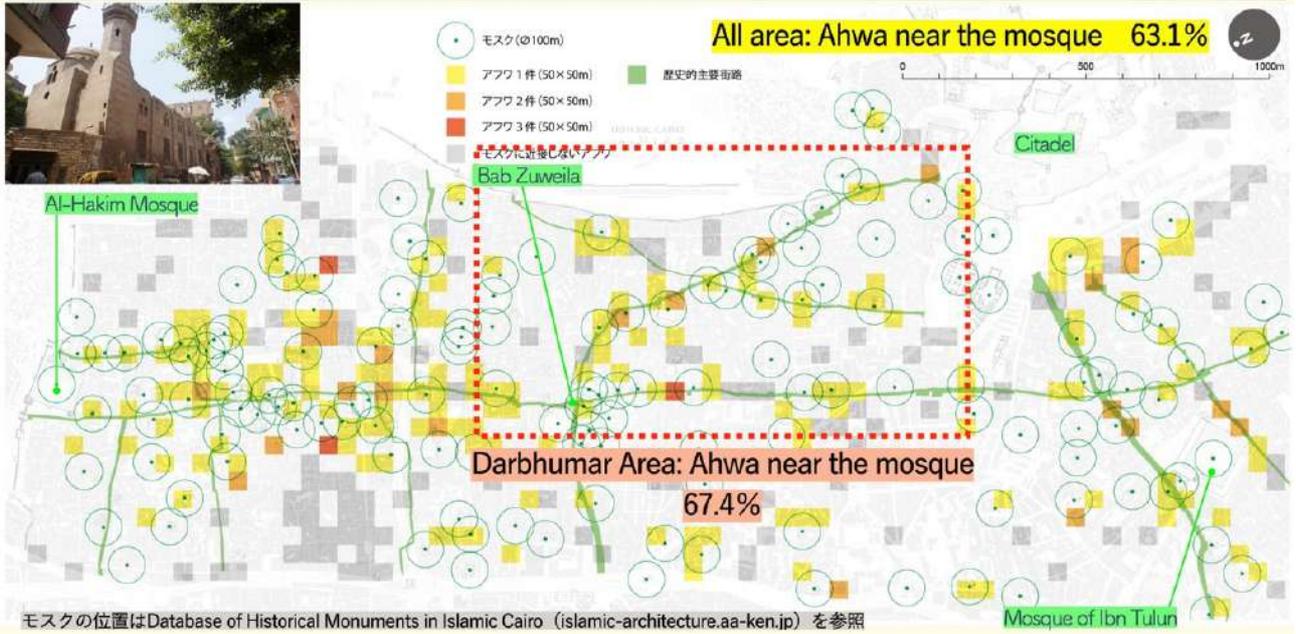
Distribution of Ahwa (360 cases)



その結果が、こちらです。地図の向きが変わりました。全部で約360件ありました。おそらく、世界で最もアフワが多い都市だと思います。色の着いた四角は50m×50mの大きさです。アフワの密度を色で示しています。

濃いオレンジ色の四角の中には3件のアフワがあります。薄いオレンジ色の四角の中には2件、黄色の四角の中には1件、のアフワがあります。

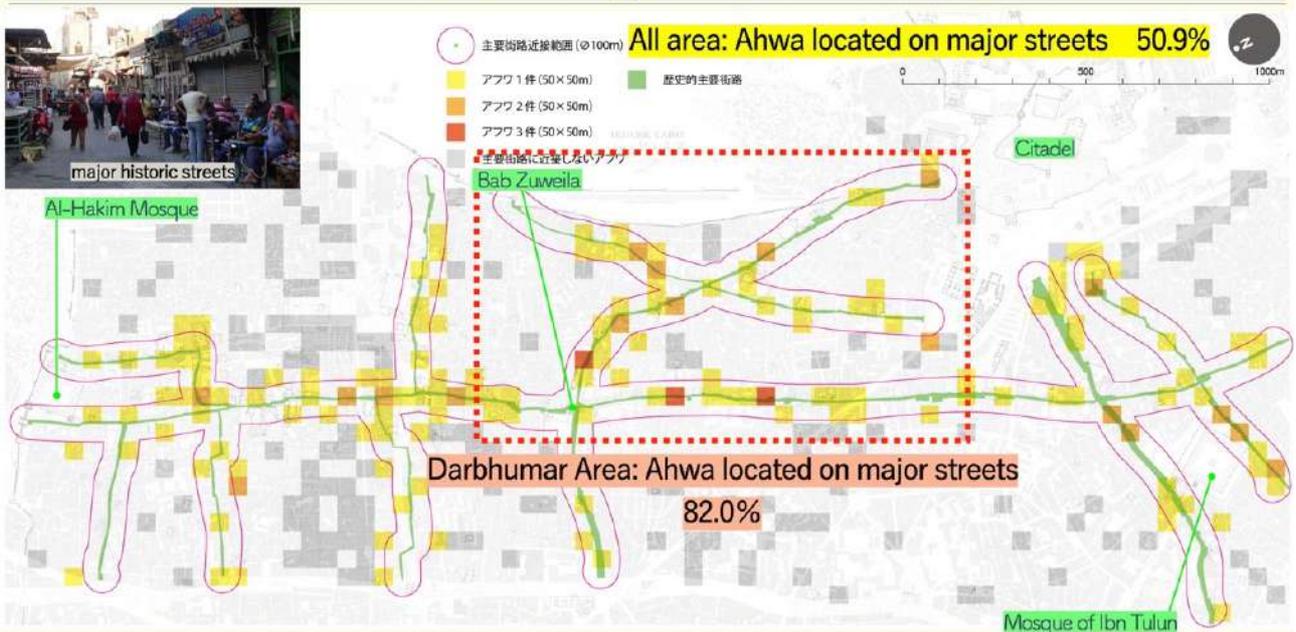
Location of mosques and Ahwa



こちらの地図は、モスクに直径 100m の円を書きました。このモスクの円に含まれるアフワがどれくらいあるのか、調べました。赤で囲った範囲が、ダルブアマルです。

この範囲の中では、67 パーセントのアフワが、モスクの近くにあることがわかりました。モスクの場所は、街の大切な場所です。街の大切な場所には、アフワがあるということを示しています。

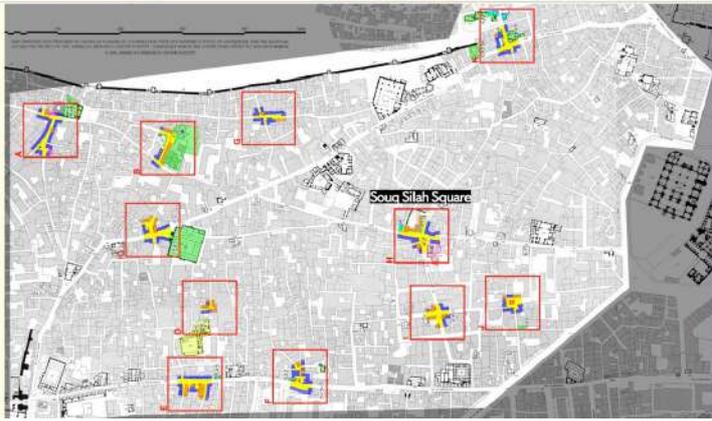
Location of Ahwa on major historic streets



では、次にこちらの地図をご覧ください。カイロ旧市街の歴史的に重要な街路を、幅 100m の範囲で囲みました。歴史的に重要な街路には、Souq Silah ストリートも含まれています。この範囲に、どれくらいのアフワがあるか調べました。

82 パーセントのアフワが、重要な街路に立地している、ということがわかりました。アフワは、歴史的に重要な街路にあって、さらに、モスクやスークと結びついていることがわかります。人々、物や商品、情報、が行き交う場所、そして、宗教的に重要な場所、街の大切な場所にアフワがあります。

Location and form of the Square



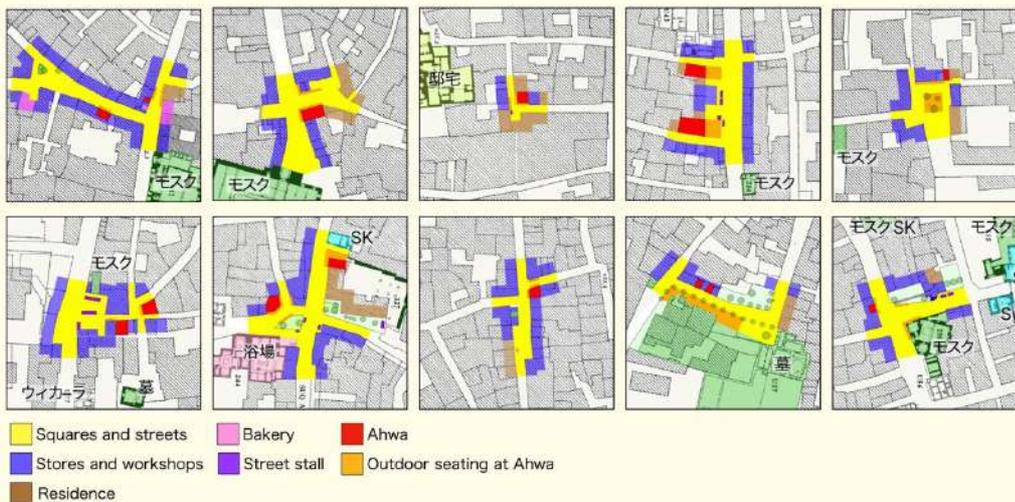
では次に、アフワがたくさんあるのは、どんな場所なのか見てみましょう。特に注目した場所がこちらです。これらは小さな広場になっている場所です。

上から2番目の図が、一番上の地図の広場を拡大した地図です。黄色が広場、赤がアフワ、青が店舗、緑がモスクや霊廟です。黄色の広場は、街路が交差していたり、街路の一部が

広がっている場所にあります。また、モスクや霊廟、ハンマーム、サビールクッターブのような、歴史的建築物の周りにある不整形な小空間も、黄色い広場の一部になっています。

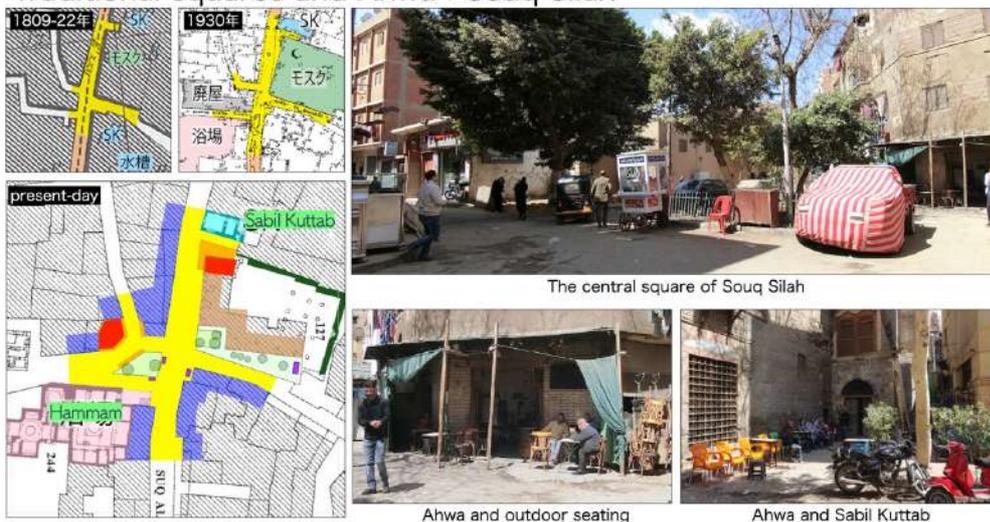
ダルブアフマルの広場は、街路やスーク、歴史的建造物と一体的な空間構成になっています。そんな場所に、アフワがあり、広場にアフワの椅子が並んでいます。こうした場所をもっと整備すれば、街全体がよくなるかもしれません。

Square space, Facilities and Ahwa



では一番下の図で、Souq silahの広場を見てみましょう。ここは、街路が交差していて、複雑な広場を形成しています。モスクだった場所やハンマーム、サビールクッターブもあって、その周辺の小空間も広場の一部になっています。街路は車が通りますが、こうした小空間は安全なので、アフワがあり、屋外に客席が並んでいます。こうした広場が、家のリビングや客間のような場所になれば、街はもっと良くなると思います。

Traditional squares and Ahwa : Souq silah



The Case of Kadinlar Pazar (Istanbul, Turkey)



では最後に、トルコのイスタンブール旧市街にある、カドゥンラル・パザルという地区の事例を紹介します。この地区は、トルコの南東部のシールトという街の出身者が多く暮らしています。南東部出身者が集まるアフワがたくさんあります。南東部の食材店やレストランもたくさんあります。

私がトルコにいた約 20 年前は、あまり整備されていない地区で、観光客はいませんでした。

Change to a pedestrian road



しかし、行政が地区の魅力に気がつき、環境の改善に取り組みました。違法建築を撤去して緑地を整備し、道路を広場にしました。アフワやレストランの屋外客席を、広場に置けるようにしました。車の通行を制限し、広場を作ることで、買い物客や観光客がたくさん訪れるようになりました。

20 年前は、モスクの前は混雑した道路でした。ここも車の通らない広場になったので、モスクの前で人々が会話を楽しています。この地区には、地域住民が使うハンマームもあります。現在は改修工事中ですが、このハンマームが地域の新しいシンボルになる予定です。現在この地区は、地域住民も暮らしやすく、買い物客や観光客もくる、魅力的な場所になっています。

Changes around Mosque and Hammam



今でもアフワはたくさんあって、南東部出身者が集う場所になっています。アフワは普通の風景ですが、街にとって、地域住民にとって、とても大切な場所です。Souq Silah も、女性や子供も暮らしやすく、歩きやすい街になれば、観光客も来たくと思います。Souq Silah がそんな街になることを、私は願っています。

私の発表はこれで終わりです。ありがとうございました

Expansion into public spaces



川越の中心市街地を見てみましょう（前頁下図）。左側は18世紀後半の地図、右側は現代の地図です。右側地図で、町の北側地区が歴史的エリア。南側地区が現代的エリアになっています。鉄道の駅ができた南側が近代になって大きく変わり、武家地から商業地へ変わったほかは、商業地や住宅地などの土地の使い方は、近世の都市が基盤となっています。伝統的建造物群保存地区は赤いエリアになります。



市立美術館(奥)
と博物館(手前)



氷川神社
埼玉県指定文化財



菓子屋横丁



喜多院
重要文化財



川越氷川祭りの山車行事
UNESCO無形文化遺産

川越城本丸御殿(1848)
埼玉県指定文化財



東照宮
重要文化財

歴史的資源

それでは、伝統的な町並み以外の歴史的資源を見てみましょう（上図）。喜多院や東照宮という近世の江戸幕府（徳川家）ゆかりのお寺や神社。ともに国指定の重要文化財です。氷川神社は、中央の写真の祭礼の中心となる神社です。ちなみにこの山車は、私の住んでいる自治会の所有です。右下の写真に見えるようなお城の御殿建築も残っています。右上の写真の菓子屋横丁は、町並み保存地区に隣接する、子供向けの昔ながらのお菓子を売るお店が、集まっている小路です。川越祭りは、ユネスコの無形文化遺産に登録されています。この祭りは、川越最大の祭りで、町の人や職人、近隣農村部の方など、近世の川越の経済圏の縮図ともなっています。コロナ禍前は、祭礼の二日間に約100万人の見物客が訪れていました。



再開発ビル
1990竣工



クレアモール



西武新宿線本川越駅 (1991竣工)



川越駅東口
JR川越線・東武東上線



商店街背後のマンション群



現代都市川越

川越駅西口
JR川越線・東武東上線

ウェスタ川越



行政施設

ホール

民間資金による商業施設

一方、鉄道駅のある南側の市街地エリアはというと、ごらんの通り（前頁下図）、高層のビルが立ち並び、現代都市です。中央上の写真の商店街は、コロナ禍以前に撮ったためマスクはしていませんが、今も人出は変わっていません。地方都市の中でも最も栄えている商店街です。この地区では、今も高層住宅の建設が続いています。

まちづくりの歴史

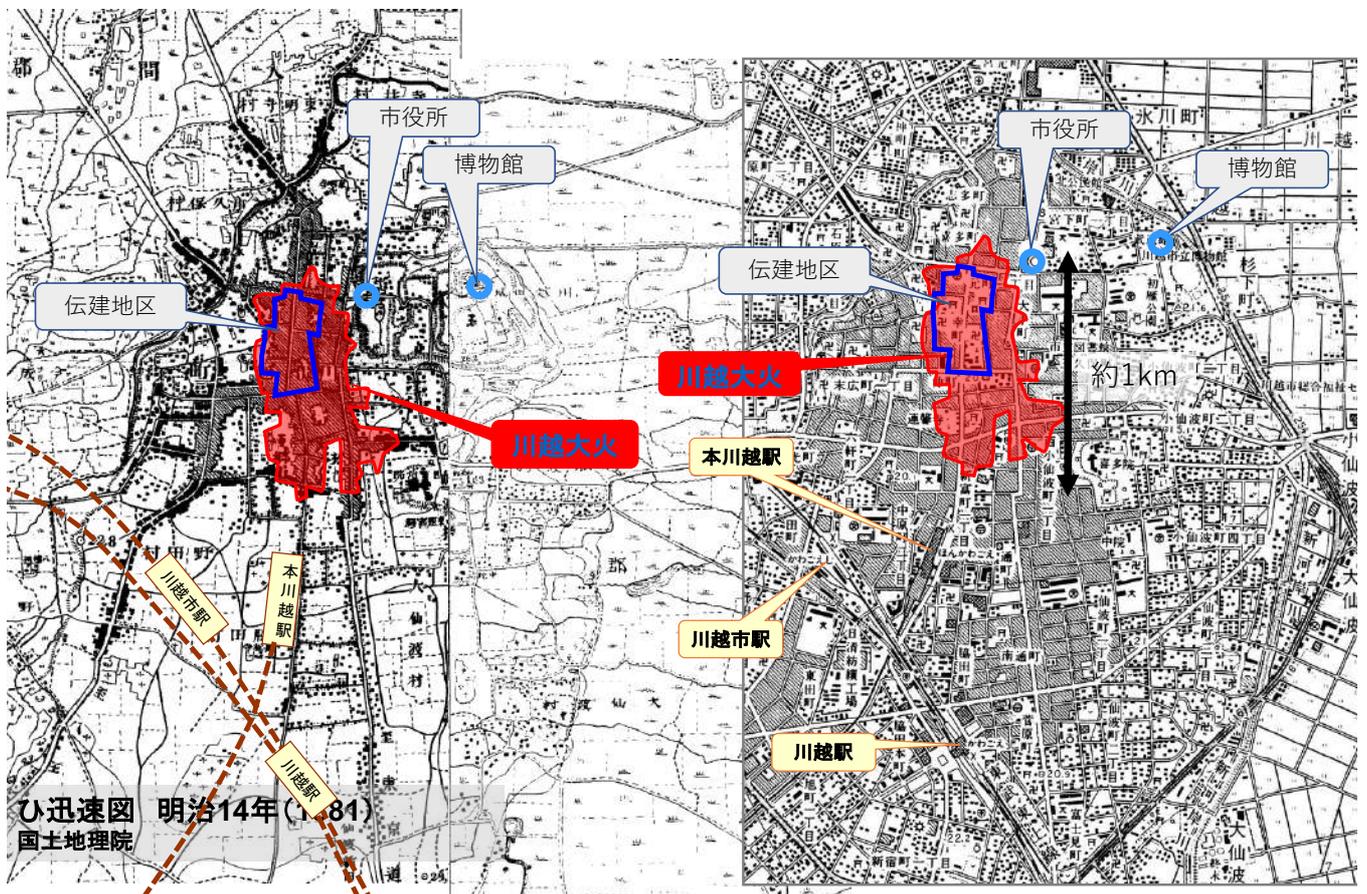
初期運動から単体保存へ

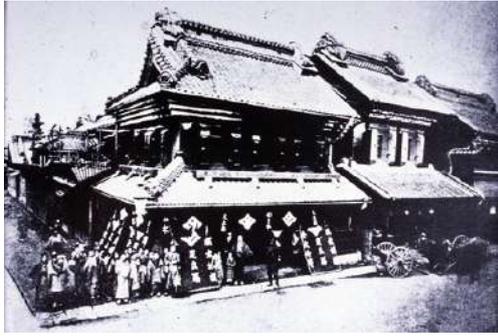
- 1638年 寛永15年の大火
松平伊豆守信綱の町割り 十力町4門前郷分町
- 1893年 明治26年の川越大火
蔵造りの町並みの成立
- 1971年 大沢家住宅重要文化財指定
- 1973年 青年会議所の活動
- 1974年 「歴史的街区保存計画」 日本建築学会関東支部
- 1975年 伝統的建造物群保存地区保存対策調査
- 1981年 蔵造り商家 市指定文化財に
当初16件→25件（住宅系のみ）

今のまちづくりにつながる歴史を簡単にご紹介しましょう。1457年にお城が築かれます。背景の写真ですが、19世紀半ばに建て替えられた川越城の本丸御殿です。1638年に大火があり、何枚か前のスライド（75頁下右図）でお

見せした町の都市計画の基礎がつけられます。そして1893年の大火で、今の町並み景観が生まれます。

下図の左側は、1881年の地図です。右側は、現代のものです。赤いエリアが火事で焼けてしまいます。当時の川越の町の全戸数の40%弱が焼失しました。しかし、中心商店街の面積からするとその60%近く焼失したのではないのでしょうか。この大火の後に復興した町並みが保存地区になります。青線で囲んだ部分です。





1893年の
大火後の
蔵造りの
町並み

1900頃

1893年の大火から数年たった川越の町並みです。「蔵造りの町並み」と言われています。この蔵造りという建築様式は、木の軸組構造の上に、何回も泥を塗り重ねて作ります。1923年の関東大震災より前の東京は、このような建築がたくさん建っていましたが、地震とその後の火事、そして戦争によってすべて失われてしまいました。川越には、日本の首都東京の歴史的景観を残す町としても有名です。

まちづくりの歴史

まちづくり運動転換期（保存から活用へ）

1983年 川越蔵の会発足（2002年NPO法人化）

- 1、住民が主体となったまちづくり
- 2、北部商店街活性化による景観保存
- 3、町並み保存のための財団形成

自主的ワーク
ショップ

1986年 川越一番街活性化モデル事業調査報告書
（コミュニティマート構想）

一番街商店街による歴史的町並みを活かした商店街再生構想

87年 一番街商店街町並み委員会発足

88年 一番街町づくり規範制定

歴史を活か
したまちづ
くりの開始

川越の歴史的な町並み保存についてのアイデア設計競技会を開催します。1975年には国の補助金をうけて、町並み保存に関する調査を行います。しかし住民の賛同を得ることができなかったため、保存地区にはなりません。1981年には、町並み保存地区にできなかったため、川越市が独自に文化財に指定し守るようになりました。

川越のまちづくりが市民が主体となっていく過程をみてみましょう。1983年に蔵造りの街並みが残る

まちづくりの歴史 町づくり運動の熟成

- 1989年 川越市都市景観条例施行
- 1991年 歴史的地区環境整備街路事業整備開始
- 1992年 一番街電線地中化完成
- 1992年 行政による都市計画変更案の提示
- 1997年 住民組織が伝建地区要望書を市へ提出
- 1999年 都市計画道路の変更と
伝統的建造物群保存地区の都市計画決定 7.8ha
及び重要伝統的建造物群保存地区に選定される
- 2004年 十力町地区都市景観形成地域指定
- 2009年 一方通行社会実験
- 2011年 川越市歴史的風致維持向上計画認定
- 2014年 川越市景観計画施行 川越市都市景観条例新規制定
- 2016年 川越市歴史的建築物の保存及び活用に関する条例

自治会の
総反発

地域の若手店主や、蔵造りの町並みに関心を寄せる広範囲な市民、そして専門家が「川越蔵の会」を結成します。そこでは、住民が主体となったまちづくりを標榜にかけ、市民と専門家が一体となって自主的にワークショップを始めます。そこで議論されたことを、ワークショップに参加した商

店主たちは、商店街に持ち帰り、国の補助を受けながら、商店街にふさわしい方策を検討していきます。そこで生まれたのが、自分たちで町並みをコントロールする組織「町並み委員会」とまちをよくしていくためにルールである「まちづくり規範」です内容は後でご紹介します。ここから、歴史的資産を活かした住民主体のまちづくりが本格的始まります。

これに呼応するように、川越市役所もいくつかの方策を導入します。町の景観を守る条例をつくり、細街路の路面整備をします。日本の町では、道路の上空に多くの電線が張り巡らされていますが、それらを道路の下に埋めました。町がきれいになるにつれ、多くのお客さんが来るようになりました。そこで市役所は、町並みを守る方策を住民に提示したのです。しかし、住んでいる方々から反発を受けました。その理由は、一つには、市役所からの一方的な提示であり、住んでいる人の意見が反映されていないというもの。もう一つは、お客さんが来るようになって商売をしている人はいいのですが、商店の金儲けのために町を守るのはおかしいというものです。市役所は、自分たちの提案を撤回することになりました。

まちづくりの歴史

十カ町会の住民自身による合意形成

93～97年 十カ町会ワーク第1弾

↓
伝建地区指定へ向けて合意形成

02～04年 十カ町会ワーク第2弾

↓
景観形成地域指定へ向けて合意形成



市役所の提案を撤回させた住民ですが、このままでは、自分たちが住み続けたい町にならないと考えた住民がいました。そこで、地域の基本的なコミュニティである自治会の方々が、まちづくりを勉強する組織を作ります。十カ町会です。当初 11 の自治会、のちに 12 の自治会の集まりになります。そこで、町を再認識することから始まり、どうすれば、歴史を感じながら住み続けられるまちができるかを議論していきます。

その結果、自分たちの町で一番大

事にし、後世に伝えていかななくてはならない地域を国の保存地区にして、その周辺は、川越市の方策を取り入れた緩やかなまちづくりをしようということになりました。その後、歴史的町並みの中心部は、国の町並み保存地区になり、周辺部は歴史を生かしながらも緩やかな規制がされている地区となりました。この地区のメインストリートは、車と人が複雑に交錯する道です。まるでスークシラーハみたい。あまりにもあぶないので、自動車を一方通行にする実験も行いました。しかし、住民の合意を得られず、まだ、実現していません。その後、川越市は、歴史的町並みを維持していくためにいくつかの方策を導入しつつ、今に至っています。

では、先ほどお話に出てきた「町並み委員会」について説明いたします。構成メンバーは、商店街や自治会などの地域に住んだり、商いをしている方々の代表。次に、専門家。大学の先生や都市計画コンサルタントなど、都市計画や建築の歴史の研究者です。そして、行政は基本的にはオブザーバーとして、保存地区の建築行為を許可する時

町並み委員会

伝統的建造物群保存地区内のまちづくり検討機関

- 構成
- 1 商店街、自治会などの地域の方々(主催者)
 - 2 研究者、専門家
(都市計画や建築史の研究者、まちづくりコンサル)
 - 3 行政(都市景観課、商工振興課) オブザーバー参加
 - 4 商工会議所 NPO法人川越蔵の会(デザイン部会が中心=地元建築家)



活動 原則月1回

伝建地区の住民による自主的な事前審査機関としての役割を担う

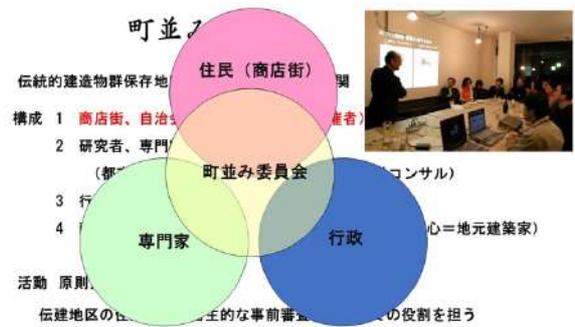
の有力な判断材料にします。最後に、商工会議所やまちづくり市民団体である「川越蔵の会」のメンバーです。この会は、保存地区内の行為に市役所が許認可する前の、住民自身による審査機関となっています。ここでの決定は、強制力はありませんが、許認可権限をもっている市役所では、もっとも重要な参考意見としています。また、コミュニティとしての強制力が無言のうちに働いているような気がします。

右上図のような関係です。

続いて町を作っていくためのルール「まちづくり規範」についてお話ししましょう。この町で、長い歴史の中で培われてきた住まい方のルールを簡単な箇条書きで表現し、それを現代社会に応用することによって住み続けられる町を作ること

を目的としています。理念として 外観だけではない規制のありかた。数値制限ではなく望ましい姿の提示。ここの地区だけでなく都市全体の在り方のから考える。そして、構成として、道路に面する個々の建物整備に始まる街路空間の整備。一宅地の整備。街区の整備。というように、いくつかのレベルでの提案をしています。ここで重要なのは、担い手が、このルールの策定にかかわり、担いてが納得し、担い手が使いこなせる内容になっていることです。当然のことながら、この策定には専門家の関与が欠かせませんでした。商店街が、自ら自分たちの商店街づくりを目指して作ったルールです。

ルールの代表的なものとして4間・4間・4間のルールがあります。1間とは日本の伝統的な長さの単位である約1.8m。従って4間は約7.2mになります。間口が狭く奥行きが長い日本の伝統的な商家の敷地はこの図のように使われることが多くあります。1軒1軒のゾーニングが連続することで街区内に中庭の連続が生まれます。街区内のグリーンベルトです。これが通風や採光といった個々の住宅の環境を守る空間へと変わります。



町づくり規範

全67項目
都市としての位置づけから看板まで



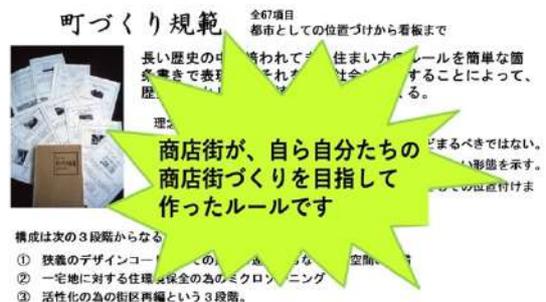
長い歴史の中で培われてきた住まい方のルールを簡単な箇条書きで表現し、それを現代社会に応用することによって、歴史を生かした住み続けられる町をつくる。

理念は次の3段階からなる

- ① 町並みの規制は、ファサードデザインにとどまるべきではない。
- ② 単なる規制、制限にとどめるべきではなく、望ましい形態を示す。
- ③ 個々の建物に対するデザインから地区の都市としての位置付けまで考える。

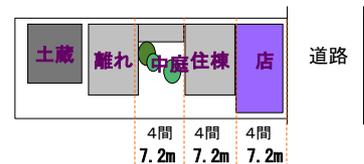
構成は次の3段階からなる

- ① 狭義のデザインコードとしての建物の連続からなる街路空間の整備
- ② 一宅地に対する住環境保全のためのマイクロゾーニング
- ③ 活性化のための街区再編という3段階。



町づくり規範の代表的な項目

4間・4間・4間のルール (1間≒1.8m)
7.2m×7.2m×7.2mのルール



写真は川越市立博物館蔵模型

町並みは生き物です。川越の町並み景観の変化をみてみましょう。今から44年前は看板で古い建物を隠していました。伝統的な建物は、古臭く汚らしいと思われていました。その10年後、市の文化財に指定された時にとりあえず看板を塗り直しました。そして看板を外し、建物を昔の姿に戻しました。しかし店舗内装は歴史的な重みを感じられる現代店舗にしています。そして電線を地中化し、さらに街路灯を新しくするとともに歩道部分を石畳にしました。川越では歴史的な町並みを守りながらも、変えていいものは現代の要求に合うように更新してきました。



1978年



1988年頃



2007年



1989年頃



1993年

町並みの移り変わり 一番街

ここで最近の事例をご紹介します。町並み保存地区のすぐ北側でのリノベーションの事例です。通称「弁天横丁」と呼ばれる一角に建つ長屋の改修事例です。





弁天横丁の西側入口

芸者の置屋街
「芸者横丁」
↓
飲食店街
「弁天横丁」
↓
空家の目立つ
うらぶれた小路
↓
再生

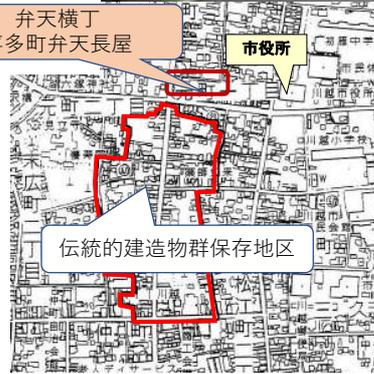


弁天横丁の入口

伝建地区



喜多町弁天長屋



伝統的建造物群保存地区

まちづくり市民団体による
空家の再生(弁天横丁の事例)



麻利弁天長屋

ここは、蔵造りの町並みができるきっかけとなった 1893 年の大火の後にできた小路です。芸者が住んでいた置屋街でした。その後、芸者の仕事を辞めた方々が、飲食店を開きます。しかし、その後、飲食を開いていた方々もいなくなり、空家となっていました。今回ご紹介するのは、左下の写真の長屋が舞台です。ちなみに、上の写真に着物姿のお嬢さんが写っていますが、彼女たちは芸者ではなく、日本の伝統的な衣装である着物を、レンタルで借りて街歩きを楽しんでいる観光客です。日常生活で着ることがなくなった伝統的な衣装を、川越を訪れることによって楽しんでいます。これも一種のコスプレでしょうか。



工事着手前 倒壊の危険性のあるブロック塀で
囲われていた。



ブロック塀解体後の様子



まちづくり市民団体による
手づくりの再生

様々な変遷をたどり最後は小
料理屋「悦」の後は空家

路地に面する外壁や
屋根の修理後

2021年7月
オープン



この長屋、最初は 1893 年の大火からほどなく建てられた、織物関係の市場だった可能性が指摘されている建築です。市場の閉鎖後は、住居、そして芸者の置屋、飲食店を経て永らく空家になっていまし

た。そこを、まちづくり市民団体である「川越蔵の会」が建物所有者から借り受けて、セルフリノベーションで改修を行いました。元は左上の写真のように白いブロック塀で覆われていました。古い時代の構築なので、地震がきたらいつ倒れてもおかしくないようなものでした。逆に、古すぎるがため壊しやすかったのですが。



みんなでいらない内装を解体しています



これまでの内装材を剥がしています



みんなの力で完成!! みんな笑顔



しっくい壁塗り

オープニングの時は作業風景のパネルを展示



みんなでレンガを敷きました



内壁の和紙貼り



和紙はユネスコの無形文化遺産登録

まちづくり市民団体とその運動に関心を持った人々が集まり、改修工事を行いました。まずは、解体。いらない内装を壊します。そして、新たな内装を施します。漆喰壁も塗りなおしました。素人なので、きれいに塗れないのは当たり前。その下手さが、味わいに変わります。壁紙も、みんなで張りました。なお和紙はユネスコの無形文化遺産に登録されたものを使っています。子供も一緒に作業して

喜多町弁天長屋の
入居者達

- 江戸和竿師
- 人力車 いつき屋
- アートクラフトグッズ
- 画家
- プロダクトデザイナー
- 鍛鉄作家
- 着物の着付師
- 革製品修理



ともし食堂 田代友里さん

埼玉県東松山市出身→都内→川越
都内(護国寺)から移転
将来の子育てと仕事の両立ができそうな町
川越に対するブランドイメージ 憧れ



Remodule Painting 福島英人さん

古い物から新しい価値を見出したい
歴史的な建物は、自分が目指すイ
メージを表現しやすい空間



弁天横丁に新しいコミュニティが
生まれだした

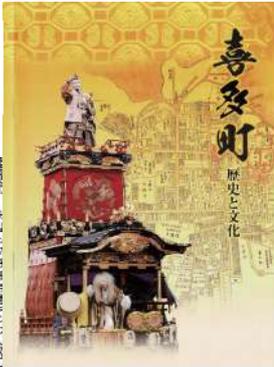


入居者の画家による
音楽と創作活動のパフォーマンス

います。オープニングでは作業風景をパネルにして展示しました。そして、川越で活躍されている陶芸家の展示販売です。参加者みんな満足げな表情です。

この長屋に入った方々は多彩です。入居条件としてアートクラフト系など新しい文化を発信してくれそうな方を選びました。東京から川越に来られた方、古い建物だからこそ創作意欲を駆り立てられる方。先日は音楽とペインティングのパフォーマンスも開かれました。落語会を開いたこともあります。おじさんたちが愛した飲み屋がなくなった今、この長屋は新しい道を歩み始めました。世代を超えたコミュニティも生まれ始めました。

喜多町では、自治会に住む方々に自分の町を知ってもらうためにパンフレットを作成し、全戸に配布しました。



昨年この周辺に位置する喜多町自治会では新たにパンフレットを作成しました。このコミュニティに暮らす人々に地域の歴史や文化、祭礼行事等を知って頂くためです。このようなパンフレットをすることによって自分の住んでいるコミュニティを知って、好きになってずっと住んで頂くための一手法です。

そこに住まう人々が地域のまちづくりに主体的に関わることにより、地域資産を生かした持続可能なまちづくりを進めることができます。そこでは、市民は市民として、専門家は専門家として、行政は行政としての役割

を理解し、それぞれが責任をもって活動することにより、より良いまちづくりを進めることができます。これで私の報告は終わらせていただきます。川越の事例がすこしでもカイロのオールシティの皆様のお役にたてれば幸いです。



おわり



そこに住まう人々が地域のまちづくりに主体的に関わることにより、地域資産を生かした持続可能なまちづくりを進めることができます。

そこでは、市民は市民として、専門家は専門家として、行政は行政としての役割を理解し、それぞれが責任をもって活動することにより、より良い、まちづくりを進めることができます。

4. カフェ、ブティックホテルなど、歴史的建造物の現代的な利用法 磯野哲郎

【いくつかの事例をととした歴史的建築物の利活用についての考察】

建築物は、人間の社会経済活動の場のために人工的に作られたもの、であるとも言え、その時代における一定の価値をもつことで存在し、維持され、活用されてきた。価値観が変わった違う時代において、歴史的建築物 (historical buildings but those not historic enough) は、素材や材料の入手が困難、設備が求められる機能を満たせ稲井など、徐々に時代の価値から離れていき、使われなくなってしまうことがある。その場合、物理的な修復を施しても新たな価値が伴わなければ再び使われなくなってしまう恐れがある

建築物の価値とはそれを所有する人、使う人によって異なり必ずしも普遍的な価値があるわけではない。しかし住宅、商店、アトリエ、礼拝所など建物の目的によっておよその傾向はあると考えられる。時代を超えて多くの人に共通の価値を保ち続ける建築物は維持され続ける。モスクのような礼拝所は時代が変わっ

建築物の価値とは？

What is value of buildings?

建築物の価値は時代とともに変化する、住宅、商店、アトリエ、礼拝所・・・

The value of buildings changes with the times: housing, shops, studios, places of worship ...

時代を通してあまり変わらないもの、礼拝所など

Buildings that do not change over time: place of worship ...

刻々と変わるもの、住宅 (ライフスタイル、クルマ社会、情報化・・・)

Buildings that change moment to moment: housing (lifestyle, car, information ...)

民間や商業利用のものを中心に、いくつかの事例をとおして考察する

In this presentation, make a case study mainly on private and commercial use.

てもその価値は変わらない。一方例えば住宅のように、大家族制から核家族へのライフスタイルの変化、車に依存する車社会、通信インフラとデバイスが必要な情報化社会の影響を受けざるを得ないものもある。今日はまとまりのあるものではないがエジプトの人たちにとって近すぎず遠すぎないいくつかの事例を見てもらいスークシラーハの活性化の参考になれば幸いである。

下右図はイラン西部の町ザンジャンのバザールの中にあるハマムを改装したチャイハネである。ライフスタイルの変化からイランでも公衆ハマムの利用は減っている。この事例は元々のハマムに家具を入れ、殆んど手を加えていないので高額な費用も関わらずある意味手軽な再利用方法であろう。ラマダン中の訪問のためバザールもシャッターがおりている店があるが本来ならもっと人が多いことを付け加えておく (下左図)。



チャイハネには、ハマムの待合室の雰囲気そのまま残っている。番台もそのまま？（下左手前部分）と思われる。我々は、ラマダン中に訪れたためチャイハネは休業中であった。中央の男性がザンジャー州遺跡観光局のアドバイザー、奥のふたりはテヘランの遺跡手工芸観光庁（ICHHTO）の職員、左の日本人女性はイスタンブール在住の HIS 職員（下左）。

ハマムらしく、クシュティ（本来はミール）と呼ばれる、伝統武道のトレーニングに使われる木製の道具が置いてあった（下右）。



次に紹介するのは、同じくザンジャー州のエコロッジで、ペルシャ語ではブームギャルディと呼ばれる。イラン政府（ICHHTO）は、伝統的なエコロッジ（ブームギャルディ）の普及を推奨しているが、ザンジャー州はブームギャルディの発祥地である。大きな市場のテヘランから 300km の距離の旅行目的地であることから、宿泊需要が見込めることが理由である。

ブームギャルディには、政府が認証したロゴと標識が掲げられている（下左）。



住戸の入口の扉も趣がある（下左）。これが訪ねたブームギャルディの入口（下右）。



入口をくぐったところ（下左）。入り口から入った中庭・囲炉裏、小部屋が塀沿いにあり、伝統的な料理や工芸の体験ができる（下右）。



壁にはアラベスクのアートも描かれる（下左）。ワゴンには、村の人たちが作ったアクセサリー、ナッツ類を並べて販売している（下右）。いわゆる委託販売で、売上は提供した村の人に還元される



このブームギャルディのオーナー夫妻。テヘランから移住してきた若いふたり（下左）。客の大半はテヘランからの若者の団体とのことである。



上右は、別のブームギャルディ（エコロッジ）で、よりテヘランに近いガズヴィーン州のアサシン教団で有名なアラムート山にある。ガズヴィーン州の町はテヘランから 150km であるが、アラムート山までだと宿泊を伴う観光目的地である。



オーナー夫妻（上左写真中央の2人）は、元々この地の出身で、定年を機にテヘランから戻ってきた年配の夫婦は。先祖代々からのペルシャ絨毯、伝統的な農具などを展示している。

緑豊かな庭にある食堂（上右写真）。

シンプルだがモダンに改装された寝室（右）。

次は、イラクと国境を接するイラン南西部で、クルド人が多く住むコルデスターン州、ホラマン渓谷ホランマンタクト村。茶色の看板は、常に、遺跡手工芸観光庁の認証した観光村の標識。1984年にこの道路ができるまでは、クルマのない隔離された地域であった。今ではペルシャ語が通じるが、住宅様式、衣装、言語、風習が守られてきた。山の向こうはイラクで、命がけの国境密貿易が盛ん。観光客が来るようになって村の人たちの現金収入の機会が増えてきた。コロナ禍前には、年間60万人の観光客が訪れ、ドイツやオーストリアなどからの外国人も訪れていた。



山肌に連なる伝統的な階段状の石造りの家々（上左）。日当たりの良い屋上のテラスでは、村の女性たちが、クルド人の伝統的なカラッシュと呼ばれる履物作りをしている。近寄って作業を見ることはできるが、女性たちの写真撮影を嫌うので、遠景でしか撮影できなかった（上右）。

カラッシュのソールは、男性職人の仕事である。カラッシュは、岩山の上下りに適したクルド人男性用の履物である。世界工芸評議会（WCC）の認定を受けている（下左）。



最後に、一転して、モロッコのマラケシュ、ジャマエルフナ広場に近い邸宅を6部屋のこじんまりとしたブティックホテルに改修したダールソハンを紹介する（下左）。よりエジプト人には身近であろう。

ダールソハンの屋上はジャグジーとサンデッキに利用されている（下右上）

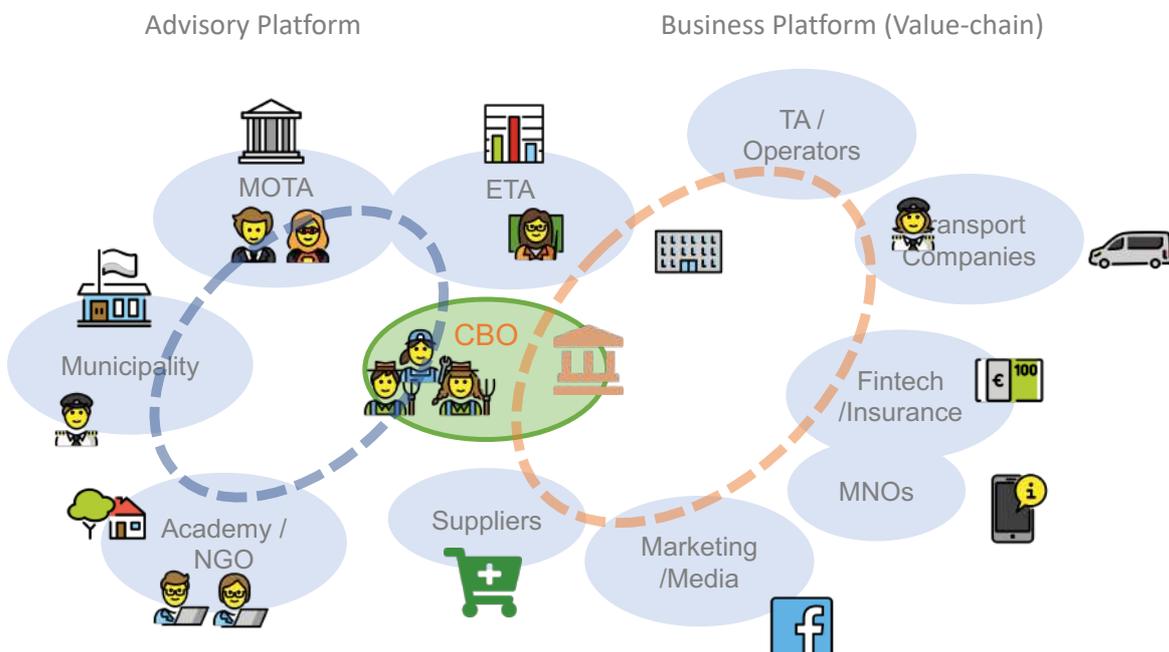
1階にあるマグレブ式のサロンにはモザイクタイルがふんだんに取り入れられている（下右下）。



高い人気のブティックホテルであるが、改装には高額な費用がかかる。また、ヨーロッパをはじめとした外国人が顧客であることから、宿泊客に満足してもらうためには、様々な外部の人や会社との連携が必要である。調度品、アメニティなどのサプライヤー、料理、ハウスキーピング、マーケティングなど、様々な分野にわたる。

歴史的建築物を使った住民による事業を考えた時、2つのネットワークが必要だと言える。ひとつは事業についてのバリューチェーンを構築すること、もうひとつは公的組織との連携体制を作っておくことである。どちらかだけでは事業として成り立たないし、歴史的建築物の保全と活用から離れていってしまう恐れがある。バリューチェーンは、コミュニティの内外にあり、サプライヤーやサービスプロバイダーはコミュニティの中で築いていくことでコミュニティの活性化や雇用の創出に結びつけることができる。公的組織には、観光遺跡省、観光庁、市役所、大学・研究機関・NGO などがある。以上、まとまりのない紹介であるが、スーク・シラーハの活性化の参考になれば幸いである。

（この段落は上記の文脈で既に記載されているため、ここでは省略し、図表の説明に集中します。）



5. 住民参加のまちづくりの仕組と事例/建築の参加のデザイン事例(連健夫)

建築家の連健夫と申します。日本建築まちづくり適正支援機構の代表理事をしています。私からは、「日本の住民参加のまちづくりの仕組と事例、建築での参加のデザイン事例」を説明させていただきます。

日本の建築まちづくりの法体系ですが、全国ルールの上に地域ルールが乗っかっているという仕組です。全国ルールは全国统一の法律で、都市計画法、建築基準法、景観法などがあります。これに地方自治体が決める条例が加わります。この条例によって、地域の個性を活かすことができるわけです。

1992年の都市計画法で住民参加が位置づけられました。そのことにより各自治体でまちづくり条例が作成されました。自治体によっては作成していないところもあります。住民参加を大切にしている自治体では街づくり条例があると考えて良いと思います。

これは、東京都港区の街づくり条例の事例です。この中で住民参加のプロセスが示されています。最初に自主的なまちづくり活動があり、それを街づくり組織として登録する、そこで話し合ってまちづくりビジョンを作り、それを下地にして地区計画という規則を作ることができます。つまり、住民が街づくり条例によって、法的に有効な規則を作ることができるということです。これらは住民だけでは難しいので、登録専門家がサポートをする仕組みがあります。

日本の住民参加のまちづくりの仕組・事例 建築の参加のデザイン事例

Mechanisms and examples of community participation in Japan, and their design of architecture

連健夫、建築家、JCAABE日本建築まちづくり適正支援機構代表理事
Takeo MURAJI, Architect,
Chairman of Japan Commission for Appropriate Architecture and the Built Environment

日本の建築・まちづくりの法体系 The Legal System of Architecture and Urban Development in Japan



1992年、都市計画法で住民参加が位置づけられた → 各自治体でまちづくり条例ができた。
(どこの自治体でもあるわけではない)

Citizen participation was established in 1992 City Planning Act → Town Planning ordinances have been established in each municipality (Not every municipality has one.)



3 「まちづくり条例」を活用したまちづくり制度の手順



街づくり条例における 住民参加のプロセス(港区) Process of Citizen participation in Town Planning ordinances (Minato Ward in Tokyo)

→ 住民がこのプロセスにおいて
地区計画を作ることができる。
Citizens can make local act in the process

→ 登録専門家が住民を支援する
Registered specialist supports
the citizen's activities in the process

私は、港区の登録まちづくりコンサルタントとして、住民をサポートしています。住民参加のまちづくりの事例をお話しします。住民参加のまちづくりの良さは、「住民が街の良い点と問題点を考える」「良い点を活かし、問題点を改善する提案ができる」「それを専門家と共に実行する」「自分の街を大切に使う気持ちが生まれます」これは赤坂通りまちづくりの会の街歩き、良い点と問題点を考えるワークショップの事例です。

住民参加のまちづくりの事例

Example: Town planning with citizen participation

【住民参加のまちづくりの良さ】

Good points of the participation

- 住民が街の良い点と問題点を考える
The residents think of good points and problems in the town.
- 良い点を活かし、問題点を改善する提案ができる
They can make good idea for the solution.
- それを専門家と共に実行する。
They can run them with specialists.
- 自分の街を大切に使う気持ちが生まれる。
As the results, they have a feeling of looking after the town.

赤坂通りまちづくりの会：待ち歩き、
良い点と問題点を考えるワークショップ
Akasaka street community: working workshop
To think of good points and problems



街の良い点と問題点を皆で歩きながら見つけます。緑は潤いを与えてイイですね。神社は歴史と伝統があり、良い点ですね。ゴミや落書きは問題点ですね。

良い点 Good Points

緑 Green
神社 Shrine



問題点 Problems

ゴミ Gabage
落書き Graffiti

会場に戻って、グループに分かれて話し合います。各グループにはファシリテーターが司会進行を行います。良い点を活かす、問題点を解決する提案をまとめ、発表し、皆さんと共有します。



話し合っ
て
Discussion

提案をまとめて、
Summarize Suggestions



発表、共有する
Presentation & Share



それらを元に、通りのリノベーションのデザイン案を考えました。歩道を広げて、緑を設け、所々にベンチを設けます。

道路の更新案作成 Create renovation plan for the street



BEFORE



AFTER

提案の実践です。落書きを消すワークショップを行いました。また美観活動としてお花植えを行いました。

提案の実践 Practice of the suggestions



落書き消しワークショップ
Graffiti, erasing workshop



美観活動 お花植え
Aesthetic Activities : flower planting

建築計画に対して、我がまちルールを元に意見交換を行っています。これはデザインレビューと言えますね。意見交換後に建築側から要望を取り入れたデザインが出てきて、皆から拍手がおこりました。

建築計画に対して我がまちルールを元に 意見交換を行う(デザインレビュー) Exchange opinions on building plans based on our community rules. (Design Review)



意見交換の後、要望を入れたデザインが説明され皆拍手
After the discussion, the design incorporated our requests
was explained to us, everyone clap!

Ten roles about our town, Akasaka

我がまちルール10箇条

- ①赤坂通りまちづくりの会との協働
新規及び改修の建築計画は必ず計画段階で当会と意見交換、協議調整をする。
- ②赤坂まちづくりのビジョンの理解
「花咲が赤坂・和モダン」をまちづくりの目標タイトルとする。
- ③赤坂通りまちづくりの会、町会、商店会への加入
新規及び改修の事業者はどれかの会に加入すること。
- ④赤坂の歴史文化の継承と創造
新規及び改修の建築計画は歴史・文化・創造に配慮し、赤坂らしいデザインとする。
- ⑤バリアフリーへの配慮
新規及び改修の建築計画は歩道側に段差を設けないなど、バリアフリーに配慮する。
- ⑥赤坂の景観への配慮
ゴミ出しのルールを守る。公共物・建物・設備は赤坂の街に調した色とする。
- ⑦緑の配慮
大小に関わらず、すべての建物は緑植えや花壇、プラントボックスなどにより緑を創出する。
- ⑧広告看板の規制と誘導
歩道の置き看板、のぼり旗広告は禁止とする。広告デザインはできるだけ外装式とする。
- ⑨用途の規制
パチンコ・賭博・暴力団事務所・消費生活センターに類する用途の建物は設置不可とする。
- ⑩回遊性への配慮
表通りのみならず路地においても美観に配慮し、赤坂に回遊の楽しさを創出する。

赤坂通りまちづくりビジョン「花咲が赤坂・和モダン」
 そぞろ歩きが楽しめ、ときめきの出会いがあり、住む人・働く人、訪れる人、皆にとっ
 て優しい街、子どもが楽しめる育達の街、バリアフリーで広い空のある街、緑が豊かで
 緑が楽しめる赤坂らしい和モダンのまちづくりを目指します。「美しいこと」「築える
 こと」の意味から、「花咲が赤坂・和モダン」をコンセプトワードとします。

赤坂通りまちづくりの会 代表：藤原 久美子 03-3583-0066

建築設計における利用者参加の事例です。これは、隠岐の島海士町の農林水産物加工施設です。隠岐の島は島根県の北にあります。既存の建物が手狭で、増築をしたプロジェクトです。ハーブティーやクッションなど手作り特産物が作られています。



建築設計における利用者参加の事例
 (隠岐の島、海士町、農林水産物加工施設)
A case study of user participation in Architectural design.
Ama-cho, Oki Island.
Agricultural and Marine Products Processing Facility



メンバーである利用者が新しい建物について話し合い、夢を表現したコラージュを作りました。そこから、コンセプトは、手作り与交流を楽しみ、夢と希望が感じられる場、人を迎える建物としました。



メンバー
 (利用者)
 で新しい建物
 について話し
 合う
**Discuss about
 new building
 By the user**



夢をコー
 ジュで表現
**Express
 dreams
 By collage**



コンセプト: Concept
手作り&交流を楽しみ、希望が感じられる場
Place for enjoy handmade and communication
to feel dream and hope
→人を迎え入れる建物
Architecture that welcomes people

3つのコンセプト模型をつくり、投票で選びました。投票が参加の機会となりますね（下左）。皆で床タイルのデザインを考え、陶芸家によって作っていただきました（下右）。



3つのコンセプト模型を作り、投票で選ぶ→投票による参加
Create three concept models and vote on them.
→Participation by vote.

皆で床のタイルのデザインを考え、陶芸家によって作ってもらう
Design for floor tiles, all together
A ceramic artist make them

施工にも利用者が参加しました。壁に断熱材として古新聞を詰め、塗装やウッドデッキ作りを行いました（下左）。完成です（下右）。手作り特産品のショーケースができ、使いやすい建物になりました。



施工での参加
Participation in construction



完成！
Completion



手作りのショーケース
Show-case for hand made products

使いやすいスペース
User friendly space

以前は建築設計やまちづくりは専門家だけで行っていました。そこに、住民や利用者が参加することによって、住みやすい街、使いやすい建築ができるわけです。この参加のデザインにワークショップは有効です。

建築や街の保存継承は、それらを使う住民の参加によって持続可能になります。建築家や専門家と住民との創造力のブレンドによって、価値があり、深みある街を作ると思います。

以前は、建築設計やまちづくりは専門家だけで行っていました。
In the past, architectural design and town planning were done only by architects, as specialists.

まちづくり←住民が参加、
Town Planning ← Citizen Participation
建築設計←利用者が参加
Architectural Design ← User Participation



住みやすい街、使いやすい建築になります。
Create livable town and user-friendly architecture
参加のデザインにワークショップは有効です。
Workshops are effective for participatory design!

建築や街の保存継承は、住民参加により持続可能になります。
Preservation and succession of architecture and towns will be sustainable with the citizen participation.

建築家・専門家と住民の創造力のブレンドが深みのある街を作ります。
A blend of creativity between architects/specialists and residents creates a profound and valuable town.

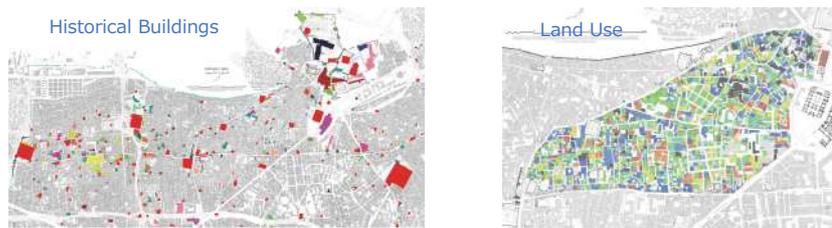


6. 学生ワークから見るとヒストリックカイロの可能性(2018年作品)と NOUH へのアドバイス(布野修司)

私は、2016年から2017年にかけて、エジプトの新しい学校建設をお手伝いするために3度カイロを訪れましたが、その際、歴史的カイロをずいぶん歩き回りました。そして、2017年の夏に、アラー先生が主催する、日本とエジプトの学生たちとスーク・シラーフの未来について議論するワークショップに参加する機会を得ました。そのワークショップの概要とその時に考えたことをお話ししたいと思います。

ワークショップは8月17日～21日、5日間にわたって行われたのですが、ファシリテーターとして日本大学から広田先生、

The Potential of Historic Cairo
Some Suggestions based on EJ Student Proposals at International Workshop, 2017



Dr. Shuji Funo
Guest Professor, Nihon University

I visited Cairo three times between 2016 and 2017 to help build a new school in Egypt, and during those visits I walked around historic Cairo a lot. Then, in the summer of 2017, I had the opportunity to participate in a workshop organized by Dr. Alaa to discuss the future of Souq al-Silah with students from Japan and Egypt. I would like to give you an overview of that workshop and what I thought about it.

EJ Student Proposals
International Workshop, 2017

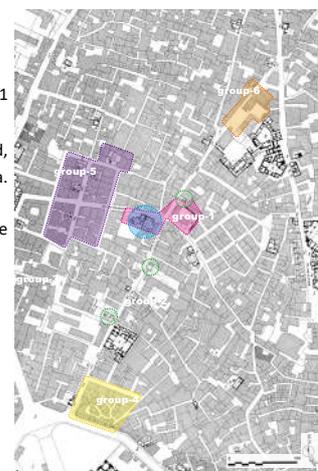
Egyptian and Japanese students worked together from 17 to 21 August, 2017 to propose the future of Souq al-Silah.

Six groups of Japanese and Egyptian students were organized, each walked around Souq al-Silah Area and selected a target area. They made creative proposals, based on field survey and discussion.

Residents responded to each proposal by suggesting, and these points were evaluated by them.

Facilitators: Dr. Alaa el-Habashi, Dr. Naoko Fukami
Dr. Naoyuki Hirota, Dr. Teruki Yamagishi
Dr. Shuji Funo

The workshop took place over five days, from 17 to 21 August, with Professors Hirota and Yamagishi from Nihon University as facilitators. The participants were organized into six groups of several people each, who walked around the Souq al-Silah and selected specific places to propose.

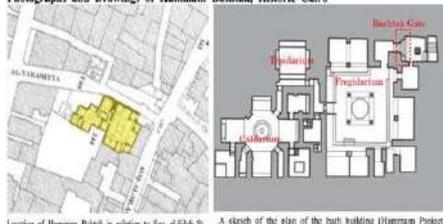


Hammam Bashtak EJ Student Proposals
International Workshop, 2017

Date	Era	Condition	Reg. no
AH 742 AD 1341	Mamluk	Flooded with Water	244



Photographs and Drawings of Hammam Bashtak, Historic Cairo



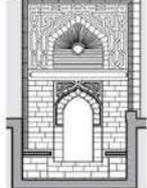
At the workshop, Dr. Alaa gave a lecture on the current situation of the district, and information was shared on the situation where historical heritage is left unattended.

山岸先生も参加しました。参加者は、それぞれ数人の6つのグループに編成され、それぞれスーク・シラーフを歩き回って、具体的に提案する場所を選定しました。

ワークショップの開始に当たっては、アラー先生から、バイト・ヤカンの改修、再生について、また、歴史的カイロの現状についてのレクチャーが行われました。また、ハンマム・バシュタックなどスーク・シラーフにある歴史的建築物については深見先生からレクチャーが行われました。

そして、歴史的遺産について、その現状を見学するエクスカーションが行われました。

Hammam Bashtak



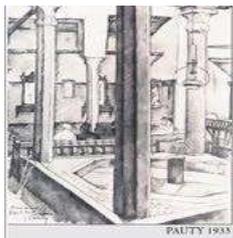
Bashtak Gate as surveyed in 2006 (Hammam Project)



Gate as of today (AEH)



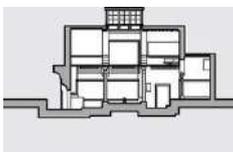
The Fregeshtam (AEH)



PAUTY 1933



The Fregeshtam (AEH)



Dr. Fukami also gave a lecture on the historical buildings in Souq al-Silah such as the Hammam Bashtak.

Current Situation



An excursion was then organised to see the historical heritage in its current state.



One of the collapsed in the the Fregidarium (AEH)



One of the collapsed in the the Fregidarium (AEH)

The Caldarium as of present time

各グループは、それぞれ地区を歩いて、ターゲット地区を選びましたが、最も広範囲に El Darb El Ahmar 全体の歴史的建造物など分布をもとに歩き回ったのは Group6 でした。

Group6 は、そして、スーク・シラーフから 6 つの場所について、さらに詳細に検討を加えました。

Hammam Bashtak EJ Student Proposals International Workshop, 2017



Each group walked around the district, discovering various problems and discussing suggestions for making the district more attractive. Group 6 was the one who walked the most extensively around El Darb El Ahmar and suggested some places.

group-6
Highlighting the features in the urban fabric of El Darb El Ahmar



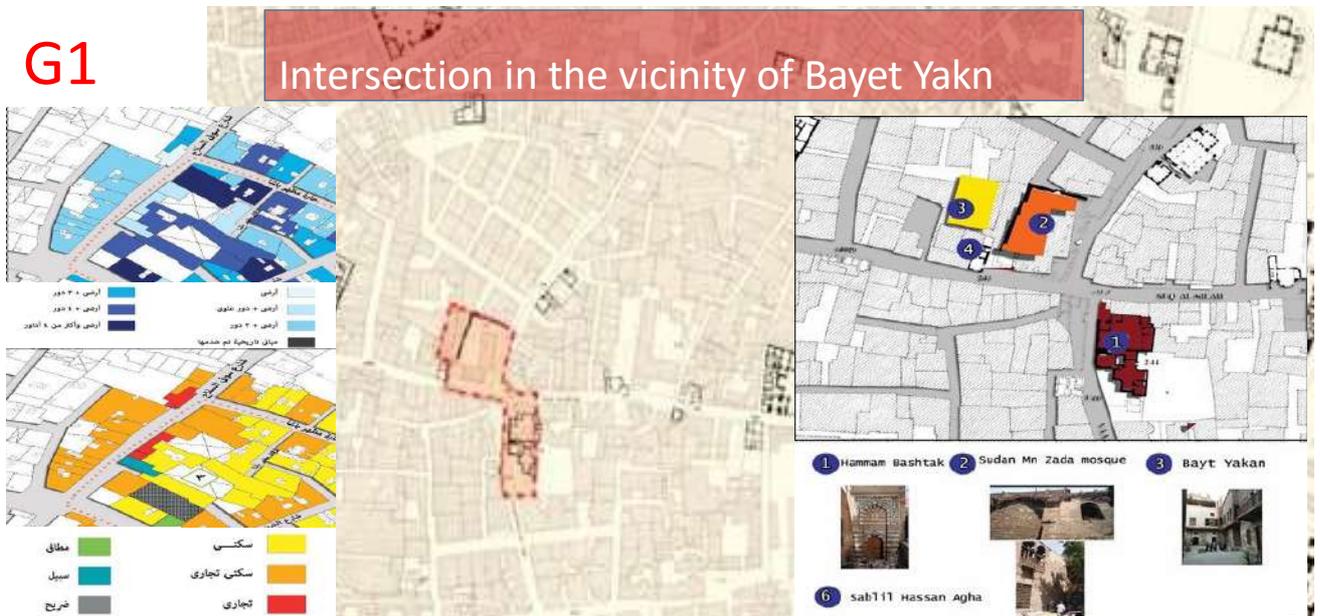
Group6 then went on to examine the six locations from Souq al-Silah in more detail.

group-6
Highlighting the features in the urban fabric of El Darb El Ahmar

	強み	弱み	機会	脅威	目的
床用寄木細工の工房	寄木細工製品代理店	輸送による騒音	寄木細工の展示	工房で使用する機械による文化遺産への影響	歴史ある伝統工芸の活用
Sednawy	特徴的なリッチにあり、延床面積が広い	廃墟	延床面積が広い為、新しい空間として活用	管理がされていない為、建物の状態が悪い	不足している都市サービスの配置
駐車場	空間がある	有効活用されていない	都市空間を生み出す	渋滞と環境問題	コミュニティの形成
交差点の所の建物のファサード	ランドマーク的な立地にあり	ファサードのデザインに統一性がない	マドラサ=アミールに人々を引き付けるためのデザインに変える	この建物の重要性が理解されていない	観光客を引きつけるチャンス
マドラサ=アミール・クトルブガ・アルザハビィ	文化遺産	使用されていない、また北上するとき気に遮られ見えていない	本来の機能に乗っ取り、宗教の教えの場としての活動拠点	未使用による建物の劣化の恐れ	宗教コミュニティの形成
閉じられたバイト=アルラザーズの入口門	バイト=アルラザーズの正門	門の崩壊による閉鎖	観光資源として活用	存在の沈黙	本来の状態に戻す

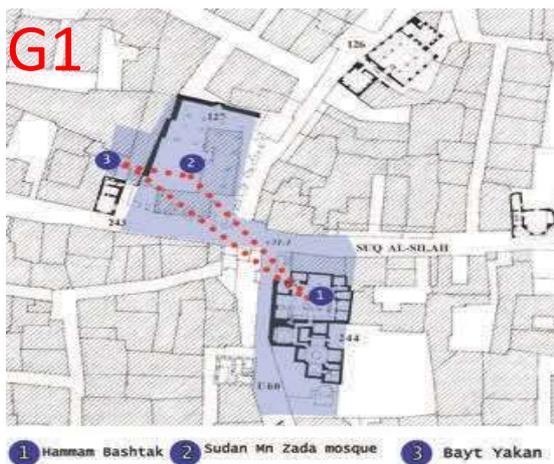
そして、その 6 カ所について、それぞれ場所の強み、弱点、推奨、問題点、提案をまとめています。

Group 1は、バイトヤカン近くの交差点、五差路に注目しました。具体的には、ここに小さな公園を設けたらどうか、という提案です。また、通りにパーゴラのような日陰をつくる覆いを設けて、歩行者の便宜を図ろうという提案です。



Group-1 propose a park-like intersection for women and children and A pergola that creates a shade to walk around historic buildings. They focused on the intersection near Bayt Yakan, a five-way intersection. The proposal is to create a small park here. The group also proposed to create a pergola-like shade cover on the street for the convenience of pedestrians.

Group1 が提起したのは、要するに、地区内の交通（トゥクトゥク）の問題です。公園を作るためには、歩行者の分離を実現する必要があります。また、時間による交通制限が必要です。これは、交通計画が必要になります。日本の「歩行者天国」のように、時間を限って、例えば、土曜日曜は歩行者優先にすることも考えられます。

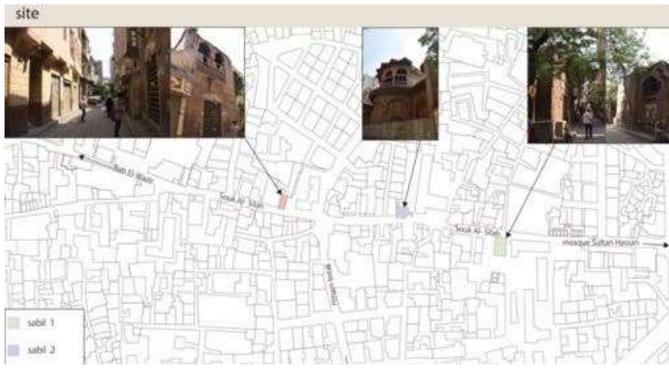


What they are raising is traffic(Tuk Tuk) issues within the district. In order to create a park, it is necessary to realize pedestrian separation. In addition, it is necessary to restrict traffic by time. This can be achieved by transportation planning. Like the Japanese "pedestrian paradise", it could be limited in time, e.g. on Saturdays and Sundays, when pedestrians have priority.

G2

Revitalization of Sabil Kuttab

group-2



Group 2 is focusing on four Sabil Kuttabs (traditional water stations with Qur'an schools) facing Souq al-Silah

Group2 は、Sabil Kuttab に注目しました。

スーク・シラーフには、4つの Sabil Kuttab がありますが、それぞれ、転用する提案が行われます。

G2

Revitalization of Sabil

group-2

concept
It is said that Sabil was created by Muslim people as a drinking place for people passing by the road. And it has used to rest house. At the present time, the development of technology the residents became able to secure drinking water without using Sabil, so it is no longer being used. But we think it is desirable to preserve the buildings that used the function of the water pumping area as an Egyptian architectural design. Based on the above, this time we will introduce a proposal to renovate internal functions while leaving buildings.

Current Sabil

Explain the current situation of Sabil located in Souk-Siraha street:
1.Sabil located in Souk-Siraha street is closed all the entrance as shown in the photo on the left.
2.when we interview to the building for citizen, there gave only ambiguous answers.
3.The garbage is scattered.
4.Foreign tourists do not know the value of the building.

We gave the following themes from the results of the survey:
1.Have the function that the residents can enjoy without changing the values of the building.
2.Spread the values of buildings all over the world.

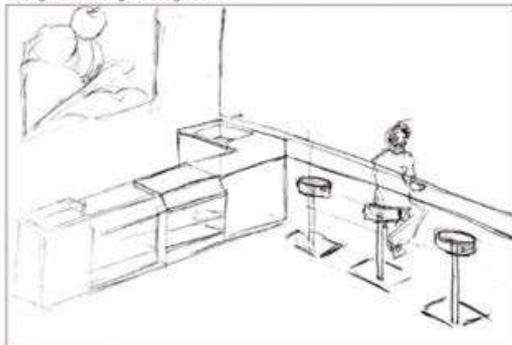
The Sabil as a meeting place
The Sabil as a library
The Sabil as a meeting room

There are four Sabil Kuttab in Souq al-Silah, each of which will be proposed for conversion.

G2

Pattern (EX 1)

There are mosques and cafes around this Sabil, where people gather. However, mosques are used by local residents and cafes tend to be used by men. So we apply ice cream like Egyptian people to this sabil this time. We devise this cafe so that visitors can visit not only local residents but also foreigners who sightseeing around.



Ice Cream Cafe

For example, they propose to use it as an Ice Cream Café.

group-2

例えば、左図は Ice Cream Caféにする提案です。

下左では、小さな博物館、地区情報センターに転用したらどうか、という提案です。

下右図は図書館、セミナー、集会スペースに転用にする提案です。

G2

Revitalization of Sabil Kuttab

group-2

Pattern (EX 2)
This sabil is well preserved from there we propose a museum that introduces Sabil to the surrounding residents and tourists. I think that if you see this museum, you will be interested in the surrounding Sabil.

The image shows three photographs: the exterior of a Sabil Kuttab building, an interior view of a museum gallery with a display case, and a close-up of a museum display panel.

Small Museum & Tourist Information Center

The proposal is to reuse it into a small museum and district information centre.

Pattern (EX 3)

There are few meeting facilities in Souk-Siraha street. Therefore, this Sabil that stands near the intersection where the traffic volume is high puts the function of the meeting place and the library for the inhabitants. In the library, we will arrange workshop materials and historical books of streets to collect information. And the meeting place thinks various use methods such as being used for street meetings etc.



Small Library and Meeting Room

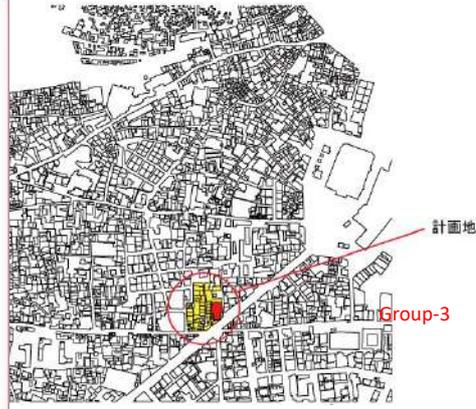
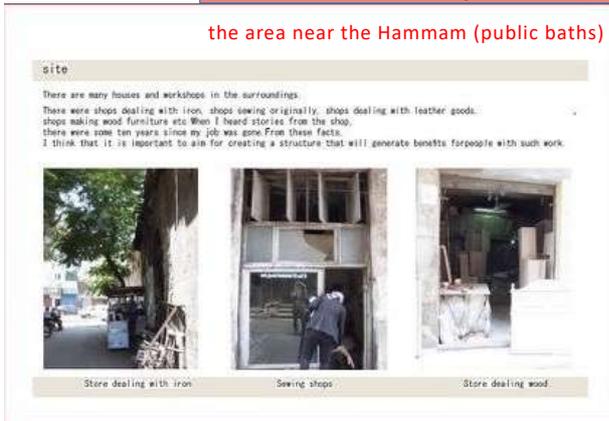
The proposal is to convert it into a library, a seminar and a meeting place.

group-2

G3

Super Hammam

group-3



Group3 This is a proposal to modernise the hammam. In Japan, the Super Sento, or Super Spa, is a popular way to add various functions to bathing facilities. When Dr. Alaa came to Japan, we introduced that Japanese public baths have been declining, but new Super Sentos are emerging.

Group3
ハンマムを現代化しようという提案です。日本では、スーパー・セント Super Spa といって、入浴施設に様々な機能を付け加えて人気を集めています。アラア先生が日本に来られた時には、日本の銭湯も衰退してきたけれど、新しいスーパー・セントーが出現していることを紹介しました。

G3

group-3

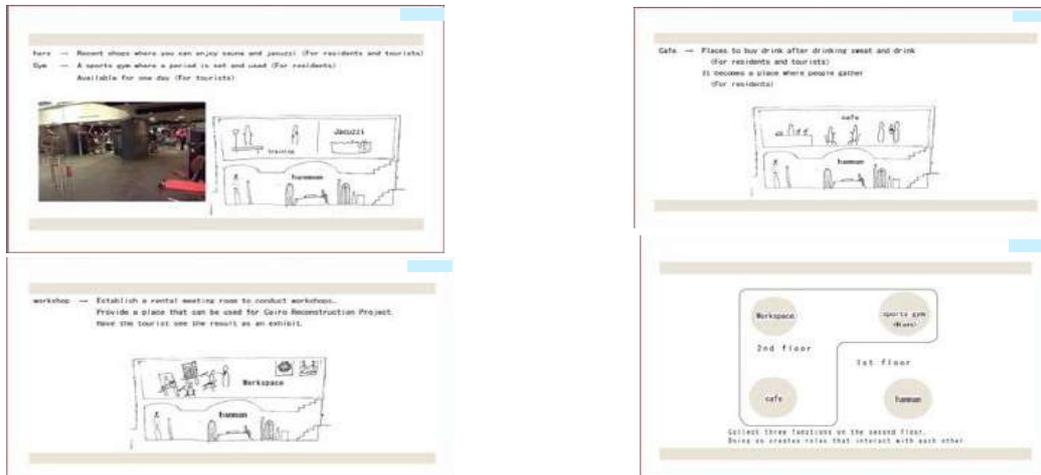


Group3 proposes to have restaurants area and annex of spa.

G3

Super Hammam

group-3



They also suggest that a gym and various other spaces could be added.

ジムや様々なスペースを付加できるのではないかと提案しています。

G4 A Gate to Souq al-Silah - High Densed Neighbourhood Block

group-4

Egypt - work shop

Distinguishing trait

- Consept
This area has many culture point.
Pepole can keep to the way there.



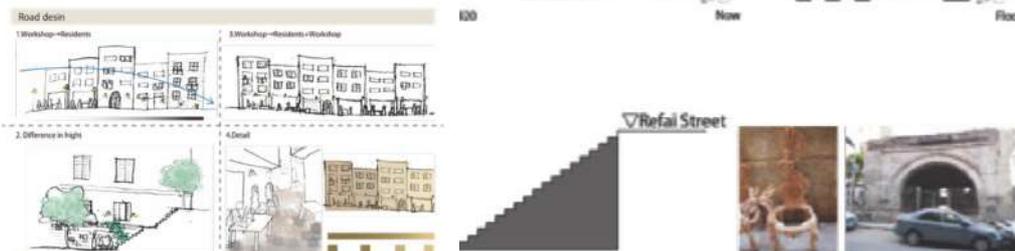
Group 4 has selected the city block to the east of the southern entrance to Souq al-Silah as its target district.

Group 4 は、スーク・シラーフの南エントランスの東に位置する街区を対象地区に選定しています。

G4 A Gate to Souq al-Silah - High Densed Neighbourhood Block

group-4

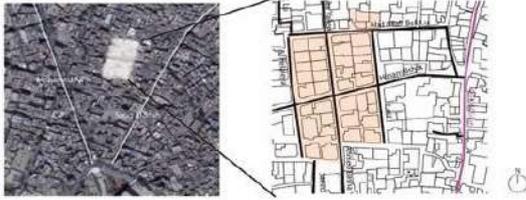
Keep to the road



The area is densely populated with quite tall buildings and various problems are pointed out, such as problems of sunlight and refuse. Detailed proposals will be made for the installation of street lighting at night.

かなりの高層建築が密集する地区で、日照の問題、ごみの問題など様々な問題が指摘されます。夜間の街灯の設置など、細かい提案がなされます。

G5



This area lies between souq Al Silah and Mohamed Ali street, we find a lot of lined up shops along with small carpentry work shops, and also is lively crowded with people.

3.Survey

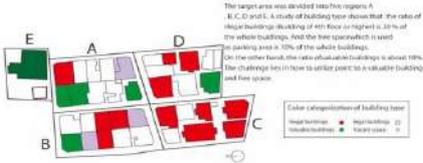
Bayt al-Gazla (al-Gazla House) : One of the most distinguished historical and valuable building in the study area



We found a residential historical building which returns to the 18th century. This building is called Bayt Al-Gazla (Al-Gazla House) which is indicated in the map by area E. The usage of this building is still residential.

Eco-Cycled House

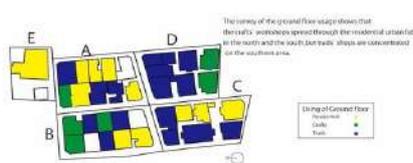
3.Survey



The target area was divided into five regions A, B, C, D and E. A study of building type shows that the ratio of major buildings (Building of 4th floor or higher) is 30% of the whole buildings, but the floor space is 50%.

For Group 5, they have selected as our target districts the residential blocks built in the first half of the 20th century. Another major theme is how to think about the future of the newly constructed modern architecture in historic Cairo.

3.Survey



The survey of the ground floor usage shows that the shops are spread through the residential urban fabric in the north and the south but trade shops are concentrated on the west side.

Usage of Ground floor
Residential
Cafe
Shop

G5

group-5

The area that was demarcated at the beginning of the 20th century

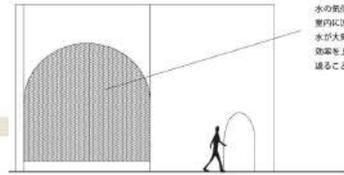


The restoration plan for this historical building Bayt Al-Gazla

We found that there are many residential buildings are built in the northern part of this historical building the restoration plan aims to make this historical building closer to its original shape and living environment.



4.Plan1



水の蒸気によって空気の温度を下げ、室内に涼しい空気を溜り入れる。水が大気と接する面積を大きくし、空気を上げるとともに、外からの視線を遮ることができる。

The restoration plan for the historical building Bayt Al-Gazla

We found that there are many residential buildings, are built in the northern part of this historical building so, we can propose the following plan:

1. Restore the building original facade and merging it with the surrounding buildings, by drawing its outline on the buildings facades or by using traditional material on these facades like stones to make it easy for any one to imagine the original shape for this historical house.

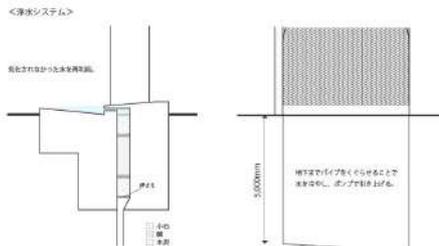


Eco-Cycled House

Group 5 proposes an eco house based on passive technology, using renewable energy wherever possible.

G5

group-5



4.Plan3



Furniture cafe

There is a historical workshops in block B and there is a space area beside these workshops, so we can establish a furniture cafe where tourists can use the furniture made by these workshops, in addition the cafe will be a place where craftsmen and tourists can interact with each other closely.



Eco-Cycled House

Open Gallery & office Building

In the central area we find two vacant spaces and two historical buildings in between, so we plan for an open gallery in the vacant spaces and the central historical building planned to be an indoor gallery. Furthermore we can establish an office building in the second historical building by freeing its facade.



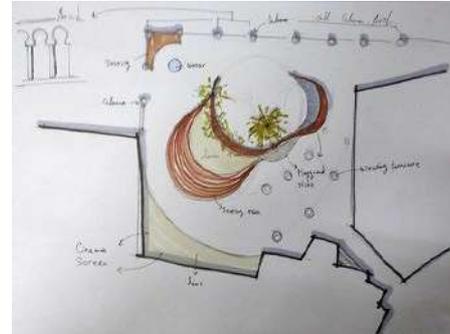
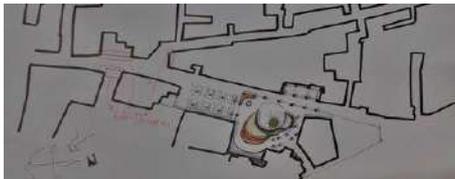
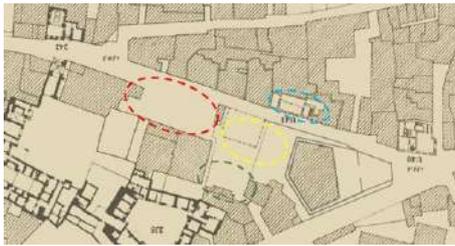
Group5 は、20 世紀前半に建設された集合住宅街区を対象地区に選定しました。歴史的カイロにおいて、新たに建設されてきた現代建築の将来をどう考えるかも大きなテーマです。

Group5 は、パッシブ技術を基本とする、可能な限り再生エネルギーを用いるエコハウスを提案します。

Group5 は、また、地区の工芸産業に着目し、家具のギャラリーなどを提案します。

Group5 will also focus on the district's craft industry, proposing a furniture gallery and more.

The area where Souq Silah Road branches off.



Group6 は、最終的には一カ所を選んでモニュメントを設置する提案を行いました。

ワークショップは参加した学生たちにとっても大変刺激的な経験だったようです。一人の学生は上のような感想「このワークショップで感じたのは、カイロの歴史の深さです。カイロの歴史を建築で守ることは非常に難しいと感じましたが、立派でした。この地域に住むすべての人がこの問題について考えてくれることを願っています。そのためには、ワークショップを継続してワクワクすることが非常に重要だと思います。子供たちが将来のカイロについて考えてくれることを願っています。」を述べています。

最も重要なことは、地区住民、行政当局、ユネスコなどのさまざまな利害関係者が日常的に地区の将来について話し合うことができる、持続可能な場所やコミュニティ開発センターなどの組織をどのように作成するかです。いくつかの基本指針をあげると以下のようになります。

- (1) コミュニティ主体の計画
- (2) 参加による合意形成
- (3) 小規模プロジェクト
- (4) 段階的アプローチ
- (5) 地区の多様性の維持
- (6) 都市景観の再生
- (7) コミュニティ・アーキテクトの採用

Conservation of Urban Landscape (Historical Cultural Heritages) and Revitalization of Community

0 The most important thing is how to create a sustainable place or an organization such as a community development center where various stakeholders such as district residents, administrative authorities, and UNESCO can discuss the future of the district on a daily basis.

1 Community-based plan

It is not possible to rely on public assistance for all reconstruction, and it is not realistic due to financial problems. However, there are limits and impossible for the victims to work on their own reconstruction. Also, leaving all such reconstruction to self-help is a waiver of public responsibility. However, if the national and local governments cannot respond in detail to the circumstances and demands of each individual and each district, the community should be considered as the main body of the reconstruction plan, and mutual assistance by the community is the basis.

2 Consensus building by participation

Participation of local residents is indispensable in formulating and implementing reconstruction plans. Various interest adjustments are required in planning, and their effectiveness cannot be guaranteed unless consensus is reached among the local residents. The community has the role of forming consensus with the participation of local residents.

3 Small scale project Large-scale projects do not fit in for consensus building. In order to recover and improve the living environment within a familiar range, it is better to accumulate small-scale projects.

3 Small scale project

Large-scale projects do not fit in for consensus building. In order to recover and improve the living environment within a familiar range, it is better to accumulate small-scale projects.

4 Step-by-step approach

That is, a step-by-step approach is needed. It is desirable to guide each movement step by step under certain rules.

5 Maintaining the diversity of the district

The district has a history of the district, and the composition of the inhabitants is unique. Reconstruction plans should be implemented in a way that respects the uniqueness of the district and allows for diversity. In other words, the uniform method does not always fit into the entire city.

6 Regeneration of cityscape:

The history of the city and the importance of its memory Historical and cultural heritage should be restored and regenerated as much as possible in order to maintain the uniqueness of the district. Cities are formed over historical time, and the atmosphere and landscape of the town is a valuable common property for the lives of the inhabitants. I want to aim for regeneration that values people's memories.

7 Utilization of community architect

For the reconstruction district plan, it is necessary to listen to the requests of the community residents and make various advices. There have already been examples of instructors and students from local universities opening offices in the field and conducting volunteer activities for housing counseling, but it is desirable to have a mechanism for allocating such human resources to each district and how to provide assistance.

③. 質疑応答・意見交換

1. 中東都市における歴史地区とそこから学ぶこと／時間と空間の集積(深見)

Q.1 住民参加の維持・修復の活動は、上手く進んでいると思いますが、今後における維持・修復について具体的な案や計画はありますか。

A. この事業を今後も続けていきたいと思いますが、やはり資金源の問題もあって、どの程度継続できるかは分かりません。ただ、4月からのプロジェクトに応募しました。

2. 都市における活動のための公共空間;街路と伝統的な喫茶店(宍戸)

Q.1 解決策の具体的な案をお聞きしたい。例えばトルコの事例写真があったかと思いますが、どのようにしてあのようになったのかに興味があります。

A. トルコの事例ですが、20年前は整備が行き届いてない地区でした。その地区の良さを皆さんが感じ、南東部から人が移り住み、食文化や独特な喫茶文化ができてきました。それに行政が目をつけて、そこを整理していきましょうという話になってきました。道路に車がたくさん停まり安全に歩けない問題があったので、そこをまず解決するというで道路の一部を広場にしました。そういった場所に、アフワが外部に置かれ、観光客とか買い物客が来るようになってきたのです。

3. 川越の歴史的建造物の保存に向けた取り組みについて /街並とその現代的活用(荒牧)

Q.1 時間を経ても街の良さが無くならない。それはどうやって実現できたのか。ルールの成果なのか、住民の意識の高さなのか、政府からの補助金なのか。建物を維持・保存を可能にする要因・モチベーションは何なのか。

A. どうしたら持続可能な街になるのかというご質問と思いますが、確かに補助金は大きなモチベーションです。古い建物を直しながら使うのには大変なお金がかかります。地震のことも考える必要があります。必要な部分に補助を出すことによって、負担を減らしてあげるのはモチベーションになります。ルールづくりについては、長い年月に暮らしてきたスタイルを現代的にしています。過去から未来へ継承すべきものを継承し、変えた方がいいものがあるものは変えるという考え方です。水道・電気・ガス・暖房などの設備は新しくするが、中庭などの考え方や外観は継承していくといったことです。専門家のアドバイスを受けながら、住民が話し合っってルールを作っていくというのが大切だと思います。

Q.2 川越の町に東京からの移住者がいるとのことですが、その理由は为什么呢か？

A. 東京がどんどん変化して、ふるさと感がなくなっているが、古い建物がある川越には、ふるさと感を感じることができるからだと思います。古い建物は住むのは難しいですが、落ち着いた歴史が感じられる街に住みたい人はたくさんいます。また中には、ここだと落ち着いて子育てが出来そうだったという方もいらっしゃいました。お祭りも魅力の1つだと思います。川越祭りですが、二日間で100万人の観光客が来る大きな祭りです。そのお祭りに参加したい、お祭りと共に生きていきたい、そういう人もいます。やはり歴史的なものがあることによって都市の魅力が格段に上がると思います。単に、東京からの時

間的距離だけでなく、地域に自分がどう関わりたいか、という点では、現代都市よりはこの歴史がある街のほうが地域との繋がりがしっかり持てる。それらが歴史的な街の魅力だと思います。

Q.3 東京からの移住者の年齢層はだいたいどれぐらいですか。

A. 子育てを始めようとする人、ちょうど子供の学校が入るタイミングの方、家を買うとお金がかかるのでローンを組める年齢、30歳前後の方が多いです。

4. カフェ、ブティックホテルなど、歴史的建造物の現代的な利用法(磯野)

Q.1 伝統的公衆浴場(ハンマーム)の改修について、住民の同意や金額的なものについて教えてください。

A. ハンマームについて、彼らが改修したのは、お客さんがいなくなったことが、一番の動機だったと思います。じゃあどうしようかと言うときに、それでは機能を変えようという風になったと聞きました。ですから、お金がほとんどかかってないですし、掃除をして家具を入れただけですね。使用者がいなくなった原因はバルレヴィー時代に伝統的公衆浴場が不潔なので禁止令が出たことによると思います。

5. 住民参加のまちづくりの仕組と事例／建築の参加のデザイン事例(連)

Q.1 最後のスライドの右側の写真はどちらの写真ですか？

A. これは1月に行ったカイロ旧市街での住民ワークショップの写真で、サラ先生、アラ先生、そして深見先生が住民と話し合いました。スーク・シラーハの通りをどのようにしたらいいか、そこにある歴史的建物の使い方について、皆で話し合ったわけですね。この方法は、まさしく利用者である住民が参加している状況で、左側の写真の、東京の赤坂で行っている住民参加のまちづくりと同じことですね。サラ氏とアラ氏は建築家という専門家です。その専門家と住民のアイデアをブレンドしていくことが、持続可能性に繋がると思います。そのプロセスを通して、住民が街や建築に対して理解を深め、誇りを持つことになりましたね。

□サラ氏のコメント:住民参加に関してですが、事例をお話したいと思います。集合住宅でトイレや洗面の改修を依頼された時に、昔のアラブ式なのか、ヨーロップ式が良いかなど、利用する人でないと分からない情報があります。住民と専門家が話し合うことによって、良いものができます。もう一つの例ですが、洗濯物を干す時に、外から干したのが見えるのは嫌だとのことで、私たち専門家はバルコニーに簡易的なスクリーンを設け、道を歩く人から見えないように工夫したことがあります。これも話し合うことによってアイデアが生まれるという住民参加の良さだと思います。

6. 学生から見るヒストリックカイロの可能性(2018年作品)とNOUHへのアドバイス(布野)

□コメント:日本人学生の貴重なアイデア、ありがとうございます。若い方の意見を取り入れることは大事だと思います。ハンマームをスーパースパにして活用するアイデアは面白い。エジプトでも女性の美意識は高まっている。歩行者天国の案も良かった。自動車通行禁止を毎日することは無理だが、指定日であればできそう。露店を出したりして観光客を呼び込むことができそう。布野先生がおっしゃるように、みんなで議論し、みんな

で取り組むことがエジプトにいい環境をつくるために必要です。まわりにも広めていきたいし、将来的に価値が高まることになるので参加してくれる人も増えるはずだ。

- A. アラー先生とサラ先生を日本のグループはサポートしたいと思っている。ここでの実験を日本の経験にも活かしたい。是非、これをカイロにおける NOUH と協力したエジプトのモデルケースにする仕組みを作っていただきたいと思います。ルクソールとか、他の場所についても日本の経験と交流するような機会にも広げていただければよいですね。

④ コメント（岡田保良）

皆さんこんにちは。岡田と言います。深見さんや布野先生とは長くお付き合いいただいています。皆さんイコモスという組織をご存じでしょうか。ユネスコの世界遺産を審査する役割を担っている組織です。そのイコモスの日本の委員会での代表を務めています。

今日、日本の専門家から6つの発表がありました。その中には、荒牧さんが紹介された川越、それから連さんが紹介された東京のど真ん中の赤坂の話もございました。実は日本にはこういう歴史的な街並みを住民たちの手で作っていきこうというグループがたくさんあります。そして日本の国の法律で指定された保存のエリアも確か 100 を超えていると思います。そのように、日本には半世紀くらいにわたって住民が街並みを作り上げていくシステムが、あちこちに根付いています。

一方、カイロの歴史地区、ヒストリックカイロは、世界遺産になってから随分経つと思いますけれども、そこでのまちづくりが一体どんな風に進められているのか、について私はよく承知していませんでした。けれども、1月のワークショップでの話を伺っていると、カイロの皆さんはとても高い意識を持ってらっしゃることがわかりました。その中で、先ほど布野さんがこれからの課題を話されましたけれども、これからは皆さんがいろんな意見を出し合って街を作っていく、その枠組みやルール作りをやっていかないといけないんじゃないかと感じました。おそらくそういう形のルールづくりあるいは枠組みづくりに、日本の色んな経験がお役に立つのではないかと思います。

そして、その世界遺産という観点から申し上げれば、世界遺産だからどうこうするというのではなくて、理想的にはやはり住んでいる方たちが、自分たちの街の歴史を大事にし、それを再生し、活用しながら次の時代の街を作っていく。それが世界遺産としての価値についても損なうことがない、という枠組みができれば理想的なんじゃないでしょうか。

今日のような意見の交換は、私はまだ始まったばかりでこれから何度も続けていただきたいと思っていますし、私自身もできればもっと知っていきたい。実は、私、スーク・シラーハを訪ねたことがありません。是非一度は訪ねてですね、皆さんと意見を交換したいと思っています。更に申し上げればイコモスという、パリに本部がある NGO の組織ですけども、その NGO の中には歴史的な街、あるいは一般の住宅なんかを保存し活用しようという国際的なグループもあります。そういったところにも目を向けていただき、議論に参加していただいて、ヒストリックカイロの将来のまちづくりに活かしてもらえれば嬉しく思います。日本とカイロの皆さんとのこれからの交流が、ますます盛んになることを願ひまして、ご挨拶としたいと思います。ありがとうございました。

⑤アンケート結果

●属性：アンケートを記入した頂いた方は8名、その属性は

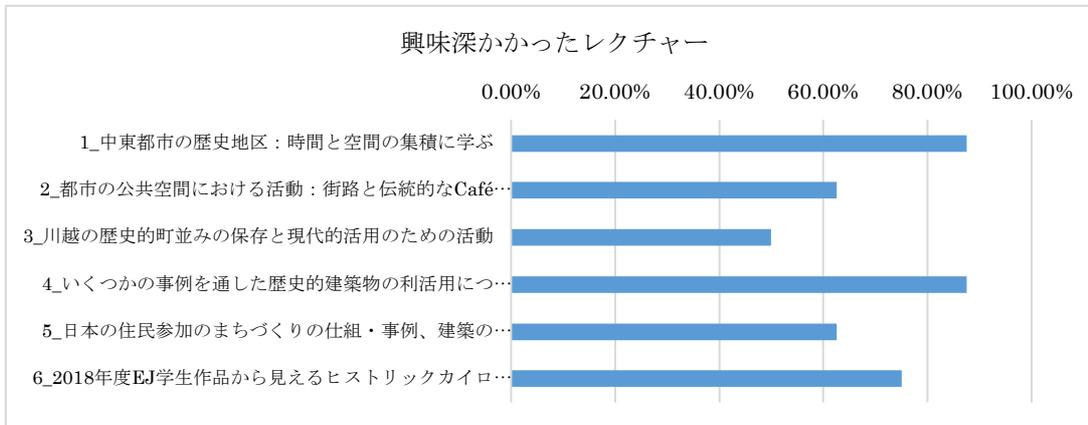
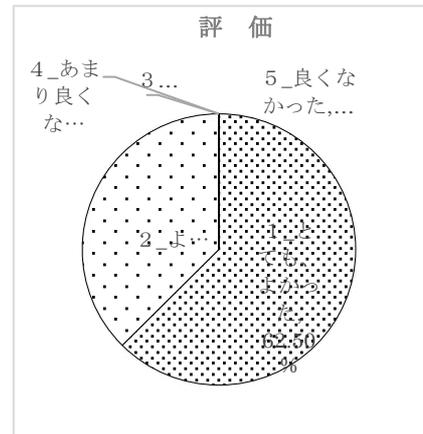
- ・フリーランスの都市遺産管理コンサルタント・博士・建築家
- ・日本イコモス・大学研究者・ICOMOS・IIWC

●オンラインレクチャーの評価

3分の2が「とても良かった」、残りがすべて「良かった」と応えており、「普通」「良くなかった」「あまり良くなかった」は0であり、満足度の高い内容であったと評価できる。

●興味深いレクチャーの問いについて

一番多かったのは「1中東都市の歴史地区：時間と空間の集積に学ぶ」と「4いくつかの事例を通した歴史的建造物の利活用についての考察」。次に「学生作品から見えるヒストリックカイロの可能性と NOUH へのアドバイス」であった。身近なテーマに対して興味を持たれたのかと推察される。



●意見・感想など（自由記述）

・多くの可能性を秘めているが、実際の利益を得るためには、特にエジプトにおける法律や統治の枠組みについて集中的な経験を積み、文脈を理解することが必要である。

・すごくエキサイティング

・歴史的建造物の再利用やコミュニティとの関わり方について、新しいアイデアを得ることができた。

・歴史的建造物の利用や再利用の様々な選択肢を理解することができ、古い建物を再生するために他の国からどのように学び、住民が自分たちの地域を改善するためのアイデアを得るのを助けることができるのか、とても役に立ちました。

・プレゼンテーションが良く、サステナビリティと歴史都市における活動の多様性に関連する重要な側面を露呈しています。

・このウェビナーを開催するために、ホスト側の努力に感謝します。カイロの街並み保存の現状と日本側の貢献の仕方を知ることができ、大変勉強になりました。

・重要伝統的建造物群保存地区制度は 1975 年に始まってから半世紀が経ち、当初の活動主体となった住民の主体が子世代へと世代交代する中で、一部で価値の継承が難しくなっています。次の 50 年、100 年と世代を超えて持続可能であり続けることは容易でないですが、多世代にファン（賛同者）を増やすための努力（またはきっかけ作り）は必要なのだと思いました。本日は、ありがとうございました。

・「たいへん興味深かった。今後の進展と思うが、カイロの歴史地区の具体的な保存活用事例や仕組みを知りたいと感じた。」